

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン アジアガクエン 学校法人 亜細亜学園									
フリガナ大学の名称	アジアダイガク 亜細亜大学									
大学本部の位置	東京都武蔵野市境5丁目8番									
大学の目的	広く一般教育に関する知識を授けるとともに深く専門の学術を研究教授するをもって目的とし、特に日本及び亜細亜の文化社会の研究と建設的実践に重点を置き、もって亜細亜融合に新機軸を打ち出す人材を育成するをその使命とする。									
新設学部等の目的	健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科は、幅広い教養を有し、多様な価値観を理解し、他者と協力する姿勢を持ち、また、生涯にわたって学び続ける習慣を身につけ、健康スポーツ科学と情報工学の学びで得た知識と技能をもとに、スポーツを通して人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献できる人材を育成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	4年	100人	年次0人	400人	学士（健康スポーツ科学）	（工学関係・体育関係）	令和8年4月 第1年次	東京都武蔵野市境 5丁目8番	
	計		100	0	400					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	健康スポーツ科学部	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
		173科目	208科目	20科目	401科目					
新設分	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人
			教授	准教授	講師	助教	計			
	健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科		12 (10)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (17)	0人 0	161人 (162)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (7)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	15 (13)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1人 (1)	0 (0)	0 (0)	0人 (0)	1 (1)			
	小計（a～b）		10 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	16 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)				
計（a～d）		12 (10)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (17)				
計		12 (10)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (17)	0 (0)	- (-)		

既	経営学部経営学科	11 (11)	12 (12)	11 (11)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	316 (316)	大学設置基準別表第一-Iに定める 基幹教員数の 四分の三の数 12人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	2 (2)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
	小計(a~b)	11 (11)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	28 (28)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	6 (6)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	11 (11)	12 (12)	11 (11)	0 (0)	34 (34)				
設	経営学部ホスピタリティ・マネジメント 学科	5 (5)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	181 (181)	大学設置基準別 表第一-Iに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計(a~b)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	4 (4)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	5 (5)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	14 (14)				
分	経営学部データサイエンス学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	196 (196)	大学設置基準別 表第一-Iに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	小計(a~b)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (10)				
分	経済学部経済学科	16 (16)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	289 (289)	大学設置基準別 表第一-Iに定め る基幹教員数の 四分の三の数 12人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)			
	小計(a~b)	16 (16)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	16 (16)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	30 (30)				

既	法学部法律学科	14 (14)	10 (10)	7 (7)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	297 (297)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 14人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	19 (19)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)			
	小計（a～b）	14 (14)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	26 (26)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	14 (14)	10 (10)	7 (7)	0 (0)	31 (31)				
設	国際関係学部国際関係学科	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	292 (292)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
	小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	3 (3)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)				
設	国際関係学部多文化コミュニケーション 学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	264 (264)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
	小計（a～b）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	3 (3)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)				
分	社会学部現代社会学科	7 (7)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	145 (145)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	15 (15)				
	計	78 (78)	49 (49)	43 (43)	0 (0)	170 (170)	0 (0)	- (-)	
	合 計	90 (88)	54 (54)	43 (43)	2 (2)	189 (187)	0 (0)	- (-)	

職 種		専 属	そ の 他	計
事 務 職 員		111 (111)	28 (28)	139 (139)
技 術 職 員		11 (11)	2 (2)	13 (13)
図 書 館 職 員		9 (9)	0 (0)	9 (9)
そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)
指 導 補 助 者		0 (0)	0 (0)	0 (0)
計		131 (131)	30 (30)	161 (161)

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計
	校舎敷地	145,646.70㎡ (145,646.70㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	145,646.70㎡ (145,646.70㎡)
	その他	2,431.63㎡ (2,431.63㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	2,431.63㎡ (2,431.63㎡)
	合計	148,078.33㎡ (148,078.33㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	148,078.33㎡ (148,078.33㎡)

校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計
	57,298.48㎡ (56,007.98㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	57,298.48㎡ (56,007.98㎡)

教室・教員研究室		教室	149室 (142室)	教員研究室	17室 (16室)	大学全体
----------	--	----	------------------	-------	----------------	------

図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕		
		健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	562,901 [162,617] (545,209 [160,801])	10,069 [2,972] (6,897 [2,168])	39,176 [36,509] (39,176 [36,509])		
計	562,901 [162,617] (545,209 [160,801])	10,069 [2,972] (6,897 [2,168])	39,176 [36,509] (39,176 [36,509])	34,578 [34,574] (34,578 [34,574])	206 (206)	0 (0)	

ス ポー ツ 施 設 等	ス ポー ツ 施 設		講 堂		厚 生 補 導 施 設		大学全体
		5,340.76㎡ (5,340.76㎡)		1,736.03㎡ (1,736.03㎡)		15,443.85㎡ (15,443.85㎡)	

経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
			教員 1 人 当 り 研 究 費 等	400 千 円	400 千 円	400 千 円	400 千 円	
	共 同 研 究 費 等	104 千 円	201 千 円	305 千 円	395 千 円			
	図 書 購 入 費	7,682 千 円	7,500 千 円	7,810 千 円	8,136 千 円	8,478 千 円		
	設 備 購 入 費	101,948 千 円	979,429 千 円	1,841 千 円	8,009 千 円	2,440 千 円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金		第 1 年 次 1,360 千 円	第 2 年 次 1,210 千 円	第 3 年 次 1,210 千 円	第 4 年 次 1,210 千 円	第 5 年 次	第 6 年 次
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		学 生 納 付 金 収 入 以 外 に も , 手 数 料 収 入 , 補 助 金 収 入 , 資 産 運 用 収 入 , 寄 付 金 収 入 等 が あり , こ れ ら の 収 入 も 財 政 的 な 基 盤 に 組 み 入 れ 維 持 ・ 運 営 を 図 る 。						

既設大学等の状況	大学等の名称	亜細亜大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
既設大学等の状況	経営学部 経営学科	4	325	15	1,345	学士（経営学）	1.06 《1.04》 1.07 《1.04》	昭和45年度 昭和45年度	東京都武蔵野市境 5丁目8番	令和5年度 入学定員減 (15名) 令和5年度3 年次編入学 定員減 (40 名)	
	ホスピタリティ・マネジメント学科	4	150	—	600	学士（経営学）	1.03 《1.01》	平成21年度			
	データサイエンス学科	4	80	—	240	学士（経営学）	1.13	令和5年度			
	経済学部 経済学科	4	250	—	1,000	学士（経済学）	1.10 《1.07》	昭和39年度			
	法学部 法律学科	4	320	—	1,300	学士（法学）	1.02 《0.99》	昭和41年度			令和5年度 入学定員減 (20名)
	国際関係学部 国際関係学科	4	130	—	530	学士（国際関係）	1.10 《1.04》 1.08 《1.02》	平成2年度 平成2年度			令和5年度 入学定員減 (10名)
	多文化コミュニケーション学科	4	130	—	530	学士（国際関係）	1.11 《1.06》	平成24年度			令和5年度 入学定員減 (10名)
	都市創造学部 都市創造学科	4	—	—	—	学士（都市創造学）	0.99 《0.95》	平成28年度			令和7年度より 学生募集停止
	社会学部 現代社会学科	4	145	—	145	学士（社会学）	—	令和7年度			
	大学等の名称	亜細亜大学大学院									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度				
	年	人	年次人	人		倍					
既設大学等の状況	アジア・国際経営戦略研究科 アジア・国際経営戦略専攻 博士前期課程 博士後期課程	2 3	30 5	— —	60 15	修士（経営学） 博士（経営学）	0.95 0.20	平成18年度 平成20年度			
	経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 博士後期課程	2 3	15 3	— —	30 9	修士（経済学） 博士（経済学）	0.36 0.11	昭和49年度 昭和51年度			
	法学研究科 法学専攻 博士前期課程 博士後期課程	2 3	15 5	— —	30 15	修士（法学） 博士（法学）	0.86 0.00	昭和49年度 昭和51年度			
	附属施設の概要	体育館（1968（昭和43）年7月竣工、延べ床面積3,963.00㎡）									

学校法人亜細亜学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
亜細亜大学				亜細亜大学				
3年次				3年次				
経営学部				経営学部				
経営学科	325	15	1330	経営学科	325	15	1330	
ホスピタリティ・マネジメント学科	150		600	ホスピタリティ・マネジメント学科	150		600	
データサイエンス学科	80		320	データサイエンス学科	80		320	
経済学部				経済学部				
経済学科	250		1000	経済学科	250		1000	
法学部				法学部				
法律学科	320		1280	法律学科	320		1280	
国際関係学部				国際関係学部				
国際関係学科	130		520	国際関係学科	130		520	
多文化コミュニケーション学科	130		520	多文化コミュニケーション学科	130		520	
社会学部				社会学部				
現代社会学科	145		580	現代社会学科	145		580	
				<u>健康スポーツ科学部</u>				
				<u>健康スポーツ科学科</u>				
				学部の設置 (認可申請)				
3年次				3年次				
計	1530	15	6150	計	<u>1630</u>	15	<u>6550</u>	
亜細亜大学大学院				亜細亜大学大学院				
アジア・国際経営戦略研究科				アジア・国際経営戦略研究科				
アジア・国際経営戦略専攻	(M) 30		(M) 60	アジア・国際経営戦略専攻	(M) 30		(M) 60	
	(D) 5		(D) 15		(D) 5		(D) 15	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	(M) 15		(M) 30	経済学専攻	(M) 15		(M) 30	
	(D) 3		(D) 9		(D) 3		(D) 9	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻	(M) 15		(M) 30	法律学専攻	(M) 15		(M) 30	
	(D) 5		(D) 15		(D) 5		(D) 15	
計				計				
	73		159		73		159	

教育課程等の概要

(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
専門科目	必修科目	ゼミナール	オリエンテーションゼミナール	1前	○	2			○		7	1		2				
		専門基礎ゼミナール	2後	○	2			○		9	4		2					
		専門ゼミナールⅠ	3通	○	4			○		8	4		2					
		専門ゼミナールⅡ	4通	○	4			○		8	4		2					
	健康スポーツ科学科目	スポーツ原理	1前	○	2				○		1							
		スポーツ史	1前	○	2				○									
		心理学入門	1前	○	2				○			1						オムニバス・共同(一部)、メディア
		スポーツサイエンス入門	1後	○	2				○			2						オムニバス・共同(一部)、メディア
		ヘルスサイエンス入門	1後	○	2				○			1		1				
		スポーツ情報処理	1後	○	2				○			1						
		生理学入門	1後	○	2				○		1							
		バイオメカニクス入門	1後	○	2				○		1							
		スポーツデータサイエンス	2前	○	2				○			1						
		ヘルスデータサイエンス	2前	○	2				○		1							
	情報工学科目	基礎科学Ⅰ	1前	○	2				○		1							
		基礎科学Ⅱ	1前	○	2				○		1							
		工学入門	1前	○	2				○		1							
		数学Ⅰ(微分積分・基礎)	1後	○	2				○			1						
		数学Ⅱ(線形代数・基礎)	1後	○	2				○			1						
		情報ネットワーク概論	1後	○	2				○		1							
		数学Ⅲ(微分積分・応用)	2前	○	2				○			1						
		数学Ⅳ(線形代数・応用)	2前	○	2				○			1						
		プログラミング基礎	2前	○	2					○	2							
		データ構造とアルゴリズム	2後	○	2					○	1							
		スポーツ統計学Ⅰ	2後	○	2					○	1							
		スポーツ統計学Ⅱ	3前	○	2					○	1							
小計(26科目)				-	-	56	0	0	-	11	5	0	2	0	0			
選択必修科目A	情報工学科目	コンピュータアーキテクチャ	1前			2			○									
		論理・電子回路	1後			2			○			1						
		オペレーティングシステム	1後			2			○									
		データベース概論	2前			2			○									
		オペレーションズリサーチ概論	2前			2			○			1						
		スポーツテクノロジー	2前			2			○		1							
		情報数学	2前			2			○							1		
		ソフトウェア工学	2後			2			○								1	
		画像処理	2後			2			○								1	
		AI概論	2後			2			○		1							
		深層学習	3前			2				○		1						
		機械学習演習	3前			2				○						1		
		アプリケーション開発演習Ⅰ	3前			2				○		1						
		VR概論	3前			2				○	1							
		コンピュータグラフィックス	3前			2				○	1							
		CG演習	3前			2				○	1							
		情報保証とセキュリティ	3後			2				○							1	
		アプリケーション開発演習Ⅱ	3後			2				○		1						
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3後			2				○	1							
		IoT演習	3後			2				○	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
専門科目	選択必修科目A	情報工学科目	自然言語処理	3後		2			○							1			
			VR演習	3後		2				○		1							
			シミュレーションと可視化演習	3後		2					○		1						
			ゲーム理論	3後		2											1		
			アダプテッドスポーツと技術支援	4前		2				○		1							
	マルチエージェントシミュレーション	4前		2					○						1				
	専門キャリア科目	健康スポーツ特別講義	2前		2					○		2		1			オムニバス（一部共同）		
		オルタナティブスポーツⅠ	3前		1					○						3	オムニバス（一部共同）		
		オルタナティブスポーツⅡ	3後		1					○	1					2	オムニバス（一部共同）		
		健康スポーツインターンシップ	3後		2					○	2	1				1			
健康スポーツボランティア活動		3後		2					○		1								
小計(31科目)				-	-	0	60	0	-		5	4	0	1	0	11			
選択必修科目B	健康スポーツ科学科目	スポーツバフォーマンス領域	スポーツ生理学	2前		2			○		1								
			スポーツバイオメカニクス	2前		2				○		1							
			スポーツ心理学	2前		2					○		1						
			スポーツ測定評価学	2前		2					○		1						
			ゲーム分析論	2前		2					○		1						
			トレーニング理論	2後		2					○		1						
			スポーツデータによるコーチングⅠ	2後		2					○		1						
			スポーツアナリティクス	2後		2					○			1					
			スポーツメンタルトレーニング	2後		2					○		1						
			eスポーツ概論	2後		2					○							1	
			スポーツゲーム戦術論	2後		2					○		1						
			スポーツデータによるコーチングⅡ	3前		2					○		1						
			生体情報によるコンディショニング	3前		2						○		1					
			スポーツ動作解析演習Ⅰ	3前		2						○		1					
			スポーツ映像解析演習Ⅰ	3前		2						○		1					
			スポーツ動作解析演習Ⅱ	3後		2						○		1					
			スポーツ映像解析演習Ⅱ	3後		2						○		1					
			スポーツ生理学演習Ⅰ	3後		2						○		2					
			スポーツ心理学演習Ⅰ	3後		2						○		1					
			スポーツ指導論Ⅰ	3後		2						○		1					
			身体表現論	4前		2						○			1				
			スポーツ生理学演習Ⅱ	4前		2						○		1					
	スポーツ心理学演習Ⅱ	4前		2						○		1							
	スポーツバイオメカニクス演習	4前		2						○		1							
	スポーツゲームアナリティクス応用演習	4前		2						○		1							
	スポーツ指導論Ⅱ	4前		2						○		1							
	ヘルスプロモーション領域	救急法	1前・後		2					○		1							
		栄養学入門	1後		2					○						1			
		障がい理解	1後		2					○						1			
		スポーツ栄養学	2前		2					○						1			
		スポーツ医学	2前		2					○		1							
		学校保健概論	2前		2					○				1					
		アダプテッドスポーツ論	2後		2					○						1			
スポーツ発育発達学		2後		2					○						1				
スポーツ栄養学演習		2後		2						○					1				
公衆衛生学		2後		2					○		1								
運動処方論		3前		2					○						1				
ヘルスデータ処理演習	3前		2						○			1							
スポーツとジェンダー	3前		2						○					1					
ヘルスフィールドワーク	3後		2						○			1							
ヘルスマネジメント	3後		2						○		1								
健康社会学	3後		2						○		1								
健康社会学演習	4前		2						○		1								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
全学 共通 科目	選 択 科 目	ヒンディー語初級Ⅰ	1前		1				○							2	
		ヒンディー語初級Ⅱ	1後		1				○							2	
		ヒンディー語初級Ⅲ	1前		1				○							2	
		ヒンディー語初級Ⅳ	1後		1				○							2	
		インドネシア語初級Ⅰ	1前		1				○							3	
		インドネシア語初級Ⅱ	1後		1				○							3	
		インドネシア語初級Ⅲ	1前		1				○							3	
		インドネシア語初級Ⅳ	1後		1				○							3	
		韓国語初級Ⅰ	1前		1					○						7	
		韓国語初級Ⅱ	1後		1					○						7	
		韓国語初級Ⅲ	1前		1					○						6	
		韓国語初級Ⅳ	1後		1					○						6	
		モンゴル語初級Ⅰ	1前		1					○						1	
		モンゴル語初級Ⅱ	1後		1					○						1	
		モンゴル語初級Ⅲ	1前		1					○						1	
		モンゴル語初級Ⅳ	1後		1					○						1	
		ポルトガル語初級Ⅰ	1前		1					○						1	
		ポルトガル語初級Ⅱ	1後		1					○						1	
		ポルトガル語初級Ⅲ	1前		1					○						1	
		ポルトガル語初級Ⅳ	1後		1					○						1	
		ロシア語初級Ⅰ	1前		1					○						1	
		ロシア語初級Ⅱ	1後		1					○						1	
		ロシア語初級Ⅲ	1前		1					○						2	
		ロシア語初級Ⅳ	1後		1					○						2	
		スペイン語初級Ⅰ	1前		1					○						5	
		スペイン語初級Ⅱ	1後		1					○						5	
		スペイン語初級Ⅲ	1前		1					○						4	
		スペイン語初級Ⅳ	1後		1					○						4	
		タイ語初級Ⅰ	1前		1					○						2	
		タイ語初級Ⅱ	1後		1					○						2	
		タイ語初級Ⅲ	1前		1					○						2	
		タイ語初級Ⅳ	1後		1					○						2	
		ベトナム語初級Ⅰ	1前		1					○						2	
		ベトナム語初級Ⅱ	1後		1					○						2	
		ベトナム語初級Ⅲ	1前		1					○						2	
		ベトナム語初級Ⅳ	1後		1					○						2	
		アラビア語中級Ⅰ	2前		1					○						2	
		アラビア語中級Ⅱ	2後		1					○						2	
		アラビア語中級Ⅲ	2前		1					○						2	
		アラビア語中級Ⅳ	2後		1					○						2	
		中国語中級Ⅰ	2前		1					○						7	
		中国語中級Ⅱ	2後		1					○						7	
		中国語中級Ⅲ	2前		1					○						8	
		中国語中級Ⅳ	2後		1					○						8	
ドイツ語中級Ⅰ	2前		1					○						1			
ドイツ語中級Ⅱ	2後		1					○						1			
ドイツ語中級Ⅲ	2前		1					○						2			
ドイツ語中級Ⅳ	2後		1					○						2			
フランス語中級Ⅰ	2前		1					○						4			
フランス語中級Ⅱ	2後		1					○						4			
フランス語中級Ⅲ	2前		1					○						4			
フランス語中級Ⅳ	2後		1					○						4			
ヒンディー語中級Ⅰ	2前		1					○						2			
ヒンディー語中級Ⅱ	2後		1					○						2			
ヒンディー語中級Ⅲ	2前		1					○						2			
ヒンディー語中級Ⅳ	2後		1					○						2			
インドネシア語中級Ⅰ	2前		1					○						2			
インドネシア語中級Ⅱ	2後		1					○						2			
インドネシア語中級Ⅲ	2前		1					○						2			
インドネシア語中級Ⅳ	2後		1					○						2			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
全学 共通 科目	選 択 科 目	韓国語中級Ⅰ	2前		1				○							9	
		韓国語中級Ⅱ	2後		1				○							9	
		韓国語中級Ⅲ	2前		1				○							8	
		韓国語中級Ⅳ	2後		1				○							8	
		モンゴル語中級Ⅰ	2前		1					○						1	
		モンゴル語中級Ⅱ	2後		1					○						1	
		モンゴル語中級Ⅲ	2前		1					○						1	
		モンゴル語中級Ⅳ	2後		1					○						1	
		ポルトガル語中級Ⅰ	2前		1					○						1	
		ポルトガル語中級Ⅱ	2後		1					○						1	
		ポルトガル語中級Ⅲ	2前		1					○						1	
		ポルトガル語中級Ⅳ	2後		1					○						1	
		ロシア語中級Ⅰ	2前		1					○						2	
		ロシア語中級Ⅱ	2後		1					○						2	
		ロシア語中級Ⅲ	2前		1					○						2	
		ロシア語中級Ⅳ	2後		1					○						2	
		スペイン語中級Ⅰ	2前		1					○						5	
		スペイン語中級Ⅱ	2後		1					○						5	
		スペイン語中級Ⅲ	2前		1					○						4	
		スペイン語中級Ⅳ	2後		1					○						4	
		タイ語中級Ⅰ	2前		1					○						2	
		タイ語中級Ⅱ	2後		1					○						2	
		タイ語中級Ⅲ	2前		1					○						2	
		タイ語中級Ⅳ	2後		1					○						2	
		ベトナム語中級Ⅰ	2前		1					○						2	
		ベトナム語中級Ⅱ	2後		1					○						2	
		ベトナム語中級Ⅲ	2前		1					○						2	
		ベトナム語中級Ⅳ	2後		1					○						2	
		English CommunicationⅠ	1~4前		1					○						7	
		English CommunicationⅡ	1~4後		1					○						7	
		English CommunicationⅢ	1~4前		1					○						7	
		English CommunicationⅣ	1~4後		1					○						7	
		English CommunicationⅤ	1~4前		1					○						7	
		English CommunicationⅥ	1~4後		1					○						7	
		English CommunicationⅦ	1~4前		1					○						7	
		English CommunicationⅧ	1~4後		1					○						7	
		中国語コミュニケーションⅠ	1~4前		1					○						6	
		中国語コミュニケーションⅡ	1~4後		1					○						6	
		中国語コミュニケーションⅢ	1~4前		1					○						3	
		中国語コミュニケーションⅣ	1~4後		1					○						3	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	1~4前		1					○						1	隔年開講
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1~4後		1					○						1	隔年開講
		ドイツ語コミュニケーションⅢ	1~4前		1					○						1	隔年開講
		ドイツ語コミュニケーションⅣ	1~4後		1					○						1	隔年開講
		フランス語コミュニケーションⅠ	1~4前		1					○						5	隔年開講
		フランス語コミュニケーションⅡ	1~4後		1					○						5	隔年開講
		フランス語コミュニケーションⅢ	1~4前		1					○						5	隔年開講
フランス語コミュニケーションⅣ	1~4後		1					○						5	隔年開講		
韓国語コミュニケーションⅠ	1~4前		1					○						7			
韓国語コミュニケーションⅡ	1~4後		1					○						7			
韓国語コミュニケーションⅢ	1~4前		1					○						7	隔年開講		
韓国語コミュニケーションⅣ	1~4後		1					○						7	隔年開講		
スペイン語コミュニケーションⅠ	1~4前		1					○						2	隔年開講		
スペイン語コミュニケーションⅡ	1~4後		1					○						2	隔年開講		
スペイン語コミュニケーションⅢ	1~4前		1					○						2	隔年開講		
スペイン語コミュニケーションⅣ	1~4後		1					○						2	隔年開講		
American Issues	2~4前		2				○							1			
Global Studies	2~4後		2				○							1			
アジアを知る12章	1~4前・後		2				○							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
全学共通科目	選択科目																	
	西洋史Ⅰ	1～4前			2		○										1	
	西洋史Ⅱ	1～4後			2		○										1	
	東洋史Ⅰ	1～4前			2		○										1	
	東洋史Ⅱ	1～4後			2		○										1	
	日本史Ⅰ	1～4前			2		○										1	
	日本史Ⅱ	1～4後			2		○										1	
	中国語応用Ⅰ	2～4前			1				○								1	隔年開講
	中国語応用Ⅱ	2～4後			1				○								1	隔年開講
	中国語応用Ⅲ	2～4前			1				○								1	隔年開講
	中国語応用Ⅳ	2～4後			1				○								1	隔年開講
	ドイツ語応用Ⅰ	2～4前			1				○								1	隔年開講
	ドイツ語応用Ⅱ	2～4後			1				○								1	隔年開講
	ドイツ語応用Ⅲ	2～4前			1				○								1	隔年開講
	ドイツ語応用Ⅳ	2～4後			1				○								1	隔年開講
	フランス語応用Ⅰ	2～4前			1				○								5	隔年開講
	フランス語応用Ⅱ	2～4後			1				○								5	隔年開講
	フランス語応用Ⅲ	2～4前			1				○								5	隔年開講
	フランス語応用Ⅳ	2～4後			1				○								5	隔年開講
	韓国語応用Ⅰ	2～4前			1				○								5	隔年開講
	韓国語応用Ⅱ	2～4後			1				○								5	隔年開講
	韓国語応用Ⅲ	2～4前			1				○								5	隔年開講
	韓国語応用Ⅳ	2～4後			1				○								5	隔年開講
	ロシア語応用Ⅰ	2～4前			1				○								1	隔年開講
	ロシア語応用Ⅱ	2～4後			1				○								1	隔年開講
	ロシア語応用Ⅲ	2～4前			1				○								2	隔年開講
	ロシア語応用Ⅳ	2～4後			1				○								2	隔年開講
	スペイン語応用Ⅰ	2～4前			1				○								2	隔年開講
	スペイン語応用Ⅱ	2～4後			1				○								2	隔年開講
	スペイン語応用Ⅲ	2～4前			1				○								2	隔年開講
	スペイン語応用Ⅳ	2～4後			1				○								2	隔年開講
	教養基礎（歴史からみた異文化交流）	1・2通			2				○								1	
	Doing HistoryⅠ	1～4後			2				○								1	隔年開講
	Doing HistoryⅡ	1～4後			2				○								1	隔年開講
	北東アジア研究Ⅰ	1～4前			2				○								1	
	北東アジア研究Ⅱ	1～4後			2				○								1	
	中国研究Ⅰ	1～4前			2				○								1	
	中国研究Ⅱ	1～4後			2				○								1	
	西洋文学Ⅰ	1～4前			2				○								2	
	西洋文学Ⅱ	1～4後			2				○								2	
	中国文学Ⅰ	1～4前			2				○								1	
	中国文学Ⅱ	1～4後			2				○								1	
	創造の世界Ⅰ（ことばとイメージーション）	1～4前			2				○								1	
	創造の世界Ⅱ（アニメーションの世界）	1～4前			2				○								1	
	日本の表象文化	1～4後			2				○								4	
	日本文学（中古）	1～4前・後			2				○								1	
	日本文学（中世）	1～4前・後			2				○								1	
	日本文学（近世）	1～4前・後			2				○								1	
	日本文学（近現代）	1～4前・後			2				○								4	
	文章作成技法	2～4前・後			2					○							2	
表現とメディアⅠ	2～4前			2				○								4		
表現とメディアⅡ	2～4後			2				○								4		
日本の伝統芸能	2～4前・後			2				○								1		
日本の美術	1～4前・後			2				○								1		
韓国文化論	1～4後			2				○								1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
全学共通科目	選択科目	教養基礎（近現代日本の文化と表現）	1・2通		2				○							1	
		教養基礎（現代文学入門）	1・2通		2				○							1	
		教養基礎（チェスと文学）	1・2通		2				○							1	
		教養基礎（理論で読む現代文学）	1・2通		2				○							1	
		文章表現	1～4前・後		2					○						5	
		教養基礎（多様性とアートの教育学）	1・2通		2					○						1	
		宗教学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		宗教学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		経済学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		経済学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		政治学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		政治学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		地誌学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		地誌学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		日本思想史Ⅰ	1～4前		2				○							2	
		日本思想史Ⅱ	1～4後		2				○							2	
		文化人類学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		文化人類学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		法学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		法学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		建学の精神を考える	1・2後		2				○							1	
		介護等体験の意義と実践	3・4通		2						○					1	
		哲学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		哲学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		倫理学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		倫理学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		情報と社会Ⅰ	1～4前・後		2				○							1	
		情報と社会Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		情報リテラシー	1～4前・後		2					○						1	
		宇宙と物質	1～4前・後		2				○							1	
		地理学Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		地理学Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		基礎数理Ⅰ	1～4前		2				○							1	
		基礎数理Ⅱ	1～4後		2				○							1	
		基礎数理Ⅲ	2～4前		2				○							1	
		基礎数理Ⅳ	2～4後		2				○							1	
		統計学入門Ⅰ	1～4前・後		2				○							2	
		統計学入門Ⅱ	1～4前・後		2				○							2	
		数学入門Ⅰ	1～4前		2				○							2	
		数学入門Ⅱ	1～4後		2				○							2	
		データサイエンス入門	2～4前・後		2					○						1	
		プログラミング言語Ⅰ	2～4前		2					○						1	メディア
プログラミング言語Ⅱ	2～4後		2					○						1	メディア		
表計算とデータサイエンス	2～4前・後		2					○						1	メディア		
キャリアデザイン	1・2後		2				○							1			
キャリア・インターンシップ	2・3通		4				○							1			
小計（237科目）		—	—	0	318	0		—		0	0	0	0	0	118		
教職課程科目	保健体育科教育法Ⅰ	2前			2	○					1						
	保健体育科教育法Ⅱ	2後			2	○					1						
	保健体育科教育法Ⅲ	3前			2	○					1						
	保健体育科教育法Ⅳ	3後			2	○					1						
	学校経営と学校図書館	2前			2	○									1		
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○									1		
	学習指導と学校図書館	2後			2	○									1		
	読書と豊かな人間性	2後			2	○									1		
	情報メディアの活用	2前			2	○									1		
	教育ボランティア	1通			1				○						1		
	教育原理	1前・後			2	○									1	後期メディア	
	教職入門	1前・後			2	○									2	後期メディア	
	教育社会学	2前・後			2	○									1		
	教育心理学	1前・後			2	○									1	後期メディア	
	特別支援教育概論	2前・後			2	○									1		
教育課程論	2前・後			2	○									1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員
教職課程科目	道徳教育の理論と実践	1前・後			2	○									1	
	総合的な学習の時間の指導法	2前・後			2	○									1	
	特別活動論	1前・後			2		○								1	
	教育方法学(ICTの活用含む)	1前・後			2	○									1	
	生徒・進路指導論	2前・後			2	○									1	
	教育相談	2前・後			2		○								2	
	教育実習指導	3後			2		○								3	
	教育実習Ⅰ	4通			5			○							3	
	教育実習Ⅱ	4通			3			○							3	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○								3	
小計(26科目)	-	-	-	0	0	55	-	-	-	0	1	0	0	0	12	
合計(401科目)		-	-	56	516	67	-	-	-	12	5	0	2	0	161	
学位又は称号		学士(健康スポーツ科学)		学位又は学科の分野				工学関係・体育関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		13週							
							1時限の授業の標準時間		105分							
科目群				卒業要件単位数												
専門科目	必修科目	ゼミナール		12単位												
		健康スポーツ科学科目		20単位												
		情報工学科目		24単位												
	選択必修科目A	情報工学科目		20単位												
		専門キャリア科目		6単位												
	選択必修科目B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域		20単位											
			ヘルスプロモーション領域													
スポーツキャリアデザイン領域			6単位													
資格取得に必要な実技			0単位													
専門科目小計				108単位												
全学共通科目	選択必修科目*1		8単位													
	選択科目		8単位													
全学共通科目小計				16単位												
合計				124単位												
*1 全学共通科目・選択必修科目群の中で修得単位数が超過した場合、全学共通科目・選択科目群に算入される。																
履修単位数制限：1学年に履修できる単位の上限を、各学期22単位、年間44単位に定める。																

授業科目の概要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	必修	ゼミナール	オリエンテーションゼミナール	○	本授業は、初年次教育の一環として、大学で学修を進めるために求められるスキルや計画的に学修する習慣を身につけるための科目である。学生それぞれが能動的に目的意識をもって充実した大学生活を送れることを目標に、少人数教育で大学での学習と生活に対して丁寧な指導と支援を行う。
専門科目	必修	ゼミナール	専門基礎ゼミナール	○	この科目は、3セメスターまでの専門必修科目および専門選択必修科目で学んだ知識やスキルに基づいて、各担当教員の専門領域に関わる基本的な課題を掘り下げて学習し、その演習を行うことを主たる目的とする。演習とは、講義で学習した内容を実践し、それを基礎にして実務に即した内容を深耕することである。授業の内容としては、健康とスポーツについての深い理解と、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献することを念頭に、さまざまな課題について調査、発表、討議を行う。あわせて、業界における人との関わりに必要な知識とスキルを学習する。
専門科目	必修	ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	○	この科目は、専門基礎ゼミナールの学修を踏まえ、各々が関心を持つ領域（スポーツパフォーマンス・ヘルスプロモーション・スポーツキャリアデザイン領域及び情報工学）を専門とする担当教員のもとでテーマの設定、文献検索、精読、プレゼンテーション、討論を通じて、そのテーマについて掘り下げて学習し、その理解を深めていく。そして、専門ゼミナールⅡで取り組む卒業研究の基盤形成を目的とする。さらに、学生のキャリア形成をサポートするためのガイダンスやアドバイス等を行う。
専門科目	必修	ゼミナール	専門ゼミナールⅡ	○	この科目は、専門ゼミナールⅠで取り組んだテーマについて実験、調査を行い、担当教員の指導のもと、最終的には卒業研究としてまとめられることを目的とする。また、その過程で取り組む文献研究、実験・調査、プレゼンテーション、討論などを通じて、社会人基礎力として掲げられる「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力とそれらを構成する能力要素を養うとともに、学生のキャリア形成をサポートするためのガイダンスやアドバイス等を行う。
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	スポーツ原理		スポーツや体育は、各時代を牽引した原理や思想の影響を受けながら変化し、現代のスポーツは、競技だけでなく、競技以外の身体活動をも含むものとして捉えられるようになり、その影響はスポーツを教材として行われる体育にも及んでいる。この科目は、体育原理や体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献する人材となるために必要な体育・スポーツへの理解を深めていくことをねらいとする。
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	スポーツ史	○	スポーツは、古代から現代に至るまで、宗教、科学技術、戦争、テロ、ナショナリズム、メディア、環境問題など、社会の様々なものの影響を受けながら変化してきた。この科目は、時代毎ではなく、現代の体育・スポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献する人材となるために必要な体育・スポーツへの理解を深めていくことをねらいとする。
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	心理学入門	○	心理学とは、心とは何か、心はどのような働き（心のメカニズムや心の仕組み）をしているのかについて、科学的に明らかにしようとする学問である。心を知り、理解することで、自分や他者について深く考え、よりよい社会をつくることに活かすためである。心理学を学ぶ基礎段階として、心理学にはどのような分野があるかを学び、日常生活で感じる疑問や心に関する社会問題をとらえて、それぞれの分野で重要とされる基本的な知識の修得を目指す。

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	スポーツサイエンス入門	<p>○ スポーツサイエンス（スポーツ科学）は、スポーツに関する「なぜ？」を解き明かす学問分野である。この科目はスポーツサイエンスの学修の入口に位置づけられ、スポーツの歴史やスポーツ産業、スポーツ組織の現状と課題、スポーツパフォーマンスを構成するメンタル・フィジカル・スキル（心技体）に関わる身体機能やトレーニング理論など、スポーツサイエンスを学修する上で必要な幅広い基礎知識を身につけることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全13回） （8 石黒えみ／6回） スポーツの歴史やスポーツ産業、スポーツ組織の現状と課題等、社会におけるスポーツの位置付け・意義や役割・機能についてスポーツマネジメント的な視点から学習する。</p> <p>（11 東浦拓郎／6回） スポーツパフォーマンスを構成するメンタル・フィジカル・スキル（心技体）に関わる身体機能や運動・トレーニングによる適応、コンディショニングや体カトレーニングなどの基礎理論について体系的に学習する。</p> <p>（8 石黒えみ・11 東浦拓郎／1回）（共同） まとめとして、ヒトと社会を健康にする生涯スポーツについて理解を深める。</p>	オムニバス（一部共同）・メディア
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	ヘルスサイエンス入門	<p>○ 本授業は、わが国の主な健康問題とそれに関わる生活習慣、保健政策・サービスなど健康に関する幅広い内容を多角的に取り上げて、学生やその周囲の人々がより健康で幸福な生活を送るために必要な知識を科学的・体系的に理解することを目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全13回）</p> <p>（11 東浦拓郎／6回） ストレス社会や超高齢社会を生きる現代人の健康課題（ストレス、睡眠、認知症など）とその対策について、特に身体活動・運動による健康づくりの観点から概説する。</p> <p>（13 土田ももこ／6回） 健康の概念や生活習慣病、日本における健康づくり施策や身体活動・運動ガイドラインについて概説する。</p> <p>（11 東浦拓郎、13 土田ももこ／1回） まとめとして、健康に関する科学的根拠に基づいた体系的な学びを通して、人々が健康で幸福な社会を実現するためにできること、すべきことについて理解を深める。</p>	オムニバス（一部共同）・メディア
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	スポーツ情報処理	<p>○ あらゆる情報は、構造化データと非構造化データに分類される。前者は人やソフトウェアが扱いやすい構造に整理されたデータを指し、後者はそのままでは処理できない構造のデータを指す。スポーツの場合、身体運動や試合映像といった非構造化データを、特定のルールによって構造化したうえで研究者やスポーツアナリストが分析を行っている。本科目は表計算ソフトを中心として、構造化データの処理方法を学ぶ。具体的には、データの前処理、データの抽出、基本統計量の算出、グラフの作成等の基本操作を習得したのち、スポーツに特化したデータを用いて、動的テーブル、動的グラフ、コート図の描画、ユーザー定義関数等の応用的かつ実践的な技能の習得を目指す。</p>	
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	生理学入門	<p>○ 生理学は、私たちの身体がどのように機能しているのかを科学的に解き明かす学問である。この科目では細胞から器官、器官系、そして全身にいたるまで、生命活動を支えるメカニズムを学習する。細胞の構造や働き、骨格筋の収縮とエネルギー代謝、神経系による情報の伝達、内分泌系によるホルモンの調節、循環器系による血液循環、呼吸器系でのガス交換、消化器系での栄養吸収など、生命を維持する上で重要な様々な器官系の働きを、幅広く学習する。これらの知識を通して、人々の健康実現とウエルビーイングな社会の発展に貢献できる能力を養う。</p>	
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	バイオメカニクス入門	<p>○ スポーツバイオメカニクスとは、物理学の一分野である力学を基盤とし、スポーツをはじめとする身体運動を科学的に理解する学問領域である。その知見は、運動効率の向上、スポーツ技術の最適化、傷害予防など、幅広い分野に応用されている。本授業の目標は、2年次（3セメスター）に開講される「スポーツバイオメカニクス」を学ぶために必要な数学、機能解剖学、力学の基礎知識を身につけることである。前半の授業では、三角関数、線形代数、微積分といった分野の基礎的な数学を学ぶとともに、機能解剖学を学び、骨格筋、骨、関節、腱などの運動器の仕組みを理解する。後半では、前半で学んだ知識を基に、「スポーツバイオメカニクス」の導入的な内容を扱う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	スポーツデータサイエンス	○	コンピュータサイエンスやハードウェアの急速な発展により、スポーツ分野においても膨大なデータが蓄積されている。試合映像やゲームパフォーマンスデータ、コンディショニングデータ、トレーニングデータなどがその代表であるが、このようなデータは、これまで不可能だった課題を解決できる可能性を秘めているため、近年、スポーツデータサイエンスの需要が増大している。そこで本授業は、スポーツデータサイエンスの全体像を理解することを目的とする。具体的には、機械学習や統計学を用いた測定モデルと分析モデルの開発、データの可視化法の開発、およびそれらを実際に使えるようにするためのエンジニアリング（アプリケーションの開発）の必要性とその実際についての概要を学ぶ。
専門科目	必修	健康スポーツ科学科目	ヘルスデータサイエンス	○	健康課題の解決や保健医療政策の検討の上では、ヘルスデータ（医療、健康、介護等に関するデータ）を適切に収集・統合・解析して活用することが求められる。本授業では、これらを実践する上で必要な基礎知識の習得をめざし、個人レベル・集団レベルの多様なヘルスデータの種類とその利活用、データ収集とデータベース構築、解析に必要な疫学・統計学の基本事項、さらにヘルスデータ解析の具体的事例について学ぶ。これにより、健康課題の解決に資するヘルスデータ活用能力を養成する。
専門科目	必修	情報工学科目	基礎科学Ⅰ	○	情報工学を含めて工学の基礎となるのは、数学、物理学、化学、生物学の自然科学系分野の理解である。本講義では、物理学(力学を含む)と数学(微積分に限定)について理解を深めるため、スポーツを教材として様々な物理現象等に迫る。そのアプローチは、単に物理・力学等の定理や数式にスポーツを当てはめるのではなく、スポーツにみられる現象からその現象の物理・力学的意味を理解していく。例えば、野球の変化球やスキー・ジャンプ等飛翔する物体現象を含んだスポーツの理解に必要な不可欠となる流体力学では、流体のエネルギー保存則であるベルヌーイの定理の理解が必要不可欠となるが、本講義では定理(数式)に当てはめてスポーツを理解するのではなく、スポーツ現象からベルヌーイの定理がどのようなのかを、受講者の経験知等に基づいて理解させていく。よって、本講義で学ぶ物理学等の基礎では難解な数式からの理解は行わない。このようなアプローチに基づく現象の理解から、工学の本質的であるモノづくりへと繋ぐ能力を養う。
専門科目	必修	情報工学科目	基礎科学Ⅱ	○	情報工学を含めて工学の基礎となるのは、数学、物理学、化学、生物学の自然科学系分野の理解である。本講義では、化学および生物学についての理解を深めるため、スポーツや生体・生理現象にみられる化学・生物学的基礎および原理を学ぶとともに、この原理を模倣することで工学的モノづくりに結びつける能力を養う。このアプローチにおいて、受講者の理解を促すために、受講者自らが工夫・製作する工作物を利用する。例えば、生理学分野で重要となる化学的基礎のボイル・シャルルの法則の理解では、呼吸を教材に、胸郭、肺胞および筋を模倣した工作物を製作し、法則の理解の促進を引き出す。本講義では、こういった工作をとおして、化学・生物学の基礎を学んでいく。加えて、化学・生物学的基礎例えば遺伝子や神経系について学んでいくことで、これらの原理を模倣した情報工学的技術である遺伝的アルゴリズムやニューラルネットワークといった最適化技術の概念設計に結びついていくことを学ぶ。
専門科目	必修	情報工学科目	工学入門	○	本講義は、工学を学ぶ上で重要な2つの内容について学習する。ひとつ目は情報工学を含め、工学を構成する主要な分野・領域の概要と理解、およびそこで展開されるスポーツやヒトに関連した研究と社会実装の事例について学ぶ。分野・領域としては、機械工学(流体力学を含む)、材料工学(材料力学を含む)、電気・電子工学、情報工学(制御工学を含む)、環境社会工学(建設工学を含む)、生物工学を取り上げ、その事例としてスポーツ・ダイナミクス・シミュレーション、スポーツAI、スポーツ材料、スポーツ遺伝子多型などを学ぶ。ふたつ目は、モノづくり基盤としての工学の責務を育む倫理について学ぶ。学習する内容としては、1) 工学領域における倫理の要件としての哲学的、歴史的、社会的考察、2) 工学領域における倫理的法的考察、3) 安全と開発者責任、4) 研究者倫理、5) モノづくり倫理、6) 情報倫理等について理解する。
専門科目	必修	情報工学科目	数学1(微分積分・基礎)	○	微分は変化の割合を、積分は面積や量の累積を表し、データ解析や機械学習、物理量の計算などに応用される。両者は基本定理により結ばれ、自然現象や工学・経済の数学的理解において極めて重要な役割を果たす。本授業ではこの出発点として、1変数関数の解析方法を説明する。
専門科目	必修	情報工学科目	数学2(線形代数・基礎)	○	本授業は、データ解析や機械学習、物理・工学など幅広い分野の基盤となる線形代数の理解を目的とする。特に行列や固有値に関する理論は、上述の項目の理解に必要な不可欠である。この理解のための基礎を身につけることが、本授業の趣旨である。
専門科目	必修	情報工学科目	情報ネットワーク概論	○	人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、特に、健康やスポーツに関わるデータ収集および分析法の知識は、社会で活躍するための基盤として求められている。本授業では、そのリサーチリテラシーとして、インターネットにおけるTCP/IPプロトコルの基礎知識、および、ルーティング、DNS、電子メール、WWWなどの仕組みについて取り上げて、それらの知識を科学的・体系的に理解する。

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	必修	情報工学科目 数学3(微分積分・応用)	○	微分は変化の割合を、積分は面積や量の累積を表し、データ解析や機械学習、物理量の計算などに応用される。両者は基本定理により結び、自然現象や工学・経済の数学的理解において極めて重要な役割を果たす。本授業では数学1の継続として、多変数関数の解析方法を説明する。	
専門科目	必修	情報工学科目 数学4(線形代数・応用)	○	本講義では、線形代数の基礎的概念を出発点として、統計的回帰分析や深層学習に至るまでの理論的連関を扱う。特に、主成分分析や線形・多項式・基底関数回帰、ガウス過程回帰などのモデルにおける行列・ベクトルの役割を明らかにし、さらにニューラルネットワークの構造と最適化の数学的基盤を理解することを目指す。	
専門科目	必修	情報工学科目 プログラミング基礎	○	データの多様化、大容量化にともない、データ収集やデータ分析を行うためにはプログラムでの処理やその思考は必要不可欠になってきている。本講義ではデータサイエンスや機械学習で多く利用されるPythonを使ったプログラミングの基礎を習得する初学者のための授業を行う。プログラムの基本制御構造を理解し、その使い方を習得することで、自ら簡単なプログラムを作成できる能力を身につけることを目的とする。	
専門科目	必修	情報工学科目 データ構造とアルゴリズム	○	人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、特に、健康やスポーツに関わるデータ収集および分析の知識は、社会で活躍するための基盤として求められている。そのためには論理的思考が不可欠であり、本講義では、プログラムアルゴリズムを通して論理的思考を体得することを目指す。	
専門科目	必修	情報工学科目 スポーツ統計学Ⅰ	○	健康生活やウェルビーイングな社会生活から測定される健康スポーツに関するデータの分析に適用する統計学の基礎的方法の実践方法を学修する。スポーツの実践データや健康スポーツ科学研究データに対応した基礎的な統計学的データ分析手法を適用する実践力を養う。データ授業を展開し、データの統計学的分析に関するスキルとリサーチリテラシーを身につける。健康スポーツ活動から測定されたデータ特性と項目特性を分析する方法、測定項目間にみられる相関関係を分析する方法、測定項目間の因果関係を探る方法、実験・調査データから要因の効果を探る方法、測定された項目を加工し、組み合わせる指標をつくる方法を習得する。	
専門科目	必修	情報工学科目 スポーツ統計学Ⅱ	○	健康生活やウェルビーイングな社会生活から測定される健康スポーツに関するデータの分析に適用する統計学の専門的方法の数理モデルと実践方法を学習する。スポーツの実践データや健康スポーツ科学研究データに対応した専門的な統計学的データ分析手法を適用する実践力を養う。データ授業を展開し、データの統計学的分析に関するスキルとリサーチリテラシーを身につける。多数の項目から測定された健康スポーツデータからクラスターに分類する方法、多数の要因から予測する方法、共通因子を探る方法、要因間の因果構造を分析する方法、健康スポーツ活動における達成度データからテスト理論に基づく達成度評価の項目特性とテスト特性を分析する方法を習得する。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目 コンピュータアーキテクチャ		現代社会は、スマートフォンから大規模なクラウドサーバーまで、あらゆるコンピュータによって支えられている。これらの上で動作するソフトウェアの性能を最大限に引き出すには、その土台であるハードウェアの論理的な構造を理解する必要がある。本科目では、コンピュータ内部の構成を理解し、その動作原理から性能向上のための技術までを体系的に理解することを目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目 論理・電子回路		論理・電子回路を学ぶ趣旨は、現代のコンピュータやスマートフォン、家電製品などの基盤となる仕組みを理解することにある。論理回路は情報の処理や制御を行う基本単位であり、電子回路はそれを実際に動かすための物理的な構成である。これらを学ぶことで、電子機器の動作原理を深く理解し、設計・開発・応用へとつなげる基礎的な技術力を身につける。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目 オペレーティングシステム		コンピュータにおけるハードウェアとソフトウェアの連携を、より容易かつ効率的にするのがオペレーティングシステムの役割である。現在は、スマートフォンやIoTデバイスなどさまざまな分野へ広がり、オペレーティングシステムへの要求や重要度も増している。本科目では、オペレーティングシステムの主要技術の中から、特に重要な「CPUの仮想化」、「並行プロセス」、「主記憶管理」、「ファイル」について理解することを目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目 データベース概論		コンピュータやインターネットが普及した現在社会では、世界中で膨大な情報が増え続けている。この膨大な情報がどのように保存され、またわれわれ人間がコンピュータなどを利用して大量の情報を効率的に取り扱うにはどうすれば良いのか。このような問題を解決するための主要技術がデータベースである。本科目では、データベースの主要技術であるデータモデル、関係データベース言語SQL、およびデータベース管理システムについて理解することを目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目 オペレーションズリサーチ概論		本科目は、複雑な現実の課題を論理的・数理的に解決する力を養うことを目的とする。生産計画、経路探索、意思決定など、実社会で直面する多様な問題に対し、最適化手法やアルゴリズムを用いて定量的に分析できる能力は、工学・経営・情報分野をはじめとする多くの領域で不可欠であり、その基礎となる理論と技術を学ぶことが本授業の趣旨である。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修A	情報工学科目	スポーツテクノロジー	工学入門で学習した工学の主要な分野・領域におけるスポーツ研究・開発の詳細な理解と、成果物として社会実装される開発用具について理解する。令和8から11年度については①機械工学（材料・流体力学を含む）②情報工学（AI・制御工学を含む）③生物工学（バイオテクノロジー）に焦点をあてる。機械工学ではコンピュータシミュレーション技術（構造解析技術を含む）を中心に、開発用具やパフォーマンス向上を達成させた材料の進化・発展と役割・重要性について理解する。②情報工学では、AIが可能とした計測・推定技術として、骨格推定を用いたスポーツの解析や体操競技の採点システム、センサデータを用いた生理指標の推定等について、その概念と役割・重要性を理解する。③生物工学では、主に遺伝子ドーピングについて、開発に至るまでの技術の変遷を含めて、最先端のバイオテクノロジー技術を理解する。本講義からは、スポーツは工学的ドーピングvs遺伝子ドーピングとも例えられる現在そして将来のスポーツテクノロジーについて、その功罪も念頭に理解していく。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	情報数学	情報数学は、情報科学の多様な分野において求められる数学的な考え方と、それに必要な論理的・構造的な理解力を養うことを目的とした科目です。 本講義では、情報を正確に扱うために不可欠な「論理」や「集合」といった基本概念を学びつつ、「グラフ理論」などの離散数学的な題材を通じて、物事を抽象化し、構造的に捉える思考力を養います。 数学的な表現方法や記号の使い方にも慣れ、情報を形式的に扱う基礎力を育成します。また、単なる公式や定理の暗記ではなく、それらがなぜ成り立つのかを考える姿勢を重視します。 複雑な情報や仕組みを整理し、筋道立てて考える力を育むことは、情報科学における様々な問題への柔軟な対応に役立つだけでなく、理論的な思考を必要とする他分野にも応用できます。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	ソフトウェア工学	ソフトウェア工学とは、「ソフトウェア」と「工学」が融合した学問分野である。「工学」とは、ものづくりに関する経験や知見を体系化した学問を指す。一方、「ソフトウェア」は単なるプログラムではなく、ソフトウェアを通じてハードウェアに命令を与え、ハードウェアの性能を最大限に引き出すコンピュータシステムを実現するためのものである。 本科目では、ソフトウェアシステムの目的と役割を正しく理解し、開発するために、ソフトウェアの開発工程、プロジェクト管理方法、要求分析、設計手法、テストと検証、保守・進化、そしてソフトウェアの再利用について理解することを目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	画像処理	画像処理とは、コンピュータを用いて画像データを変換、分析し、情報の抽出や可視化、加工を行う技術である。本講義では、画像処理の基礎理論とその応用について体系的に学ぶ。画像のデジタル化、濃淡変換、ヒストグラム処理、空間フィルタリング、エッジ検出、フーリエ変換などの代表的な手法について、数式や図を用いて丁寧に解説する。また、医療診断や監視カメラ、メディア表現などの実社会における応用事例も紹介し、画像処理技術の原理と社会的意義への理解を深めることを目指す。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	AI概論	人工知能（教師あり学習・教師なし学習・強化学習）は予測・推定・推論に特化した学術領域であり、健康スポーツ分野においてもその親和性は高い。このため、トレーニング支援や戦術分析などにおいて人工知能の活用が積極的に論じられており、実用事例も数多く存在する。本講義では、人工知能の基本的な理論を平易に解説するとともに、健康スポーツ領域での人工知能の活用事例を紹介する。授業前半は講義形式で学習し、後半は健康スポーツに対するAIの活用方法についてワークを行う。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	深層学習	畳み込みニューラルネットワーク(CNN)は、画像認識や自然言語処理など多くの分野で高い性能を発揮する深層学習の代表的な手法である。この構造や動作原理を理解することで、視覚的データの特徴抽出や分類の仕組みを数理的に把握し、実践的な応用やモデル設計の基盤を習得することが本学習の趣旨である。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	機械学習演習	インターネットの普及によりデータの大量収集が容易になった。データの収集を行うということは、そのデータから何かを知りたい・見つけたいためである。そのため、データを分析してその中にある規則性や関係性を見つけて出す「機械学習」が注目され、近年では、学習した成果に基づいた「予測・判断」が重視されている。本授業では、機械学習を中心として人工知能に関するプログラミングの基礎技術に関する演習を行う。 線型回帰やクラスターリング、主成分分析などの基本的な機械学習手法や深層学習など発展的な手法の挙動について理解することを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修A	情報工学科目	アプリケーション開発演習Ⅰ		スポーツ分野では多くのアプリケーション(ソフトウェア)が普及しており、その目的は様々である。例えばコンディショニングデータやゲームパフォーマンスデータを測定・分析するためのアプリケーションが挙げられ、その目的に応じたインターフェースや機能が実装されている。動作環境については、近年はブラウザ経由で動作し、デバイスの種類やOSを問わないWebアプリケーションが展開している。そのような背景を受け、本科目ではスポーツ分野で実用的なWebアプリケーションを開発するための基礎的技術の習得を目指す。開発はGoogle for Educationの環境を使用する。フロントエンド開発の技術(HTML、CSS、JavaScript)と、バックエンド開発の技術(Google Apps Script)の基礎を学び、実際に簡易的なWebアプリケーションの開発を行う。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	VR概論		計算機やネットワーク上に構築される仮想空間を利用したゲームやライブ映像など、エンタテインメント分野でVR(バーチャリアリティ)は広く知られている。VRは近年注目されている技術であり、教育や医療、観光など幅広く利用され、人体動作の解析などスポーツ支援にも活用されている。本講義では、VRとは何か、現実世界をどうやって計算機上で表現するか、3次元CG、力覚・触覚提示、物理シミュレーションなどのテーマを理解する。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	コンピュータグラフィックス		人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、健康やスポーツに関わるデータ収集および分析に際して、コンピュータグラフィックスによるデータの画像化は分析結果の把握だけでなく、他人へのプレゼンテーションにおいても有効である。また、スポーツを支援するシステム構築にもコンピュータグラフィックスはユーザーインターフェイス構築の基礎となる。本講義では、デジタル画像、コンピュータ上で物体表現方法(モデリング)から画像生成(レンダリング)、アニメーションのCG基本技術の理解を目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	CG演習		人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、健康やスポーツに関わるデータ収集および分析、支援システムの設計・開発において、コンピュータグラフィックスは必要不可欠な知識となる。本演習では、コンピュータグラフィックスの講義で得た知識をPython+OpenGLでプログラミングすることで知識の定着と理解を深めることを目指す。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	情報保証とセキュリティ		「情報保証とセキュリティ」は、ネットワークサービスを安全に活用するための基本的知識を学ぶことを目的とする。インターネットの普及により、スマートフォンやPCを通じて多くのサービスが利用可能となり、特にeSportsなどのスポーツ分野でも情報セキュリティの重要性が高まっている。講義では、情報ネットワークサービスの基本構造を理解し、利用者として意識すべき脆弱性やリスクを知り、それに対する適切なセキュリティ対策を学ぶ。具体的なサービスを事例に挙げながら、実際の場面で役立つ実践的な内容を取り上げつつ、ネットワークサービスを安全かつ効果的に利用するための基本的知識を身につける。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	アプリケーション開発演習Ⅱ		競技スポーツの現場では試合を撮影した映像を扱うことが多い。映像は非構造化データに分類されるため、そのままでは競技現場のスポーツアナリストが専門的に分析することができない。それゆえ、映像を処理して構造化データに変換するためのアプリケーションが必要となり、スポーツデータサイエンスによって、その開発が盛んとなっている。このような背景を受けて、本科目は動画データを処理するWebアプリケーションの開発を行う。動画データの特徴およびストレージの特性を理解したうえで、HTMLとJavaScriptによる動画の処理方法を習得し、ゲームパフォーマンス測定アプリケーションの開発を目指す。なお、本科目は「アプリケーション開発演習Ⅰ」の発展科目として位置づけられている。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	ヒューマンコンピュータインタラクション		人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、特に、健康やスポーツに関わるデータ収集および分析法の知識は、社会で活躍するための基盤として求められている。本授業では、そのリサーチリテラシーとして、誰にでも使いやすいヒューマン・コンピュータ・インタラクションを実現するための基礎知識として、人の行動特性、インタフェース手法、インタフェース評価法を取り上げて、それらの知識を科学的・体系的に理解する。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	IoT演習		あらゆるモノをインターネットにつなげるIoT技術は、クラウド、ビッグデータ、AIなどの技術とも関連し、工場、商業施設、農業、交通などさまざまな分野で活用され、新しいサービスが生まれている。健康やスポーツの分野においても、健康管理、運動パフォーマンスの計測や観戦支援などいろいろな活用が行われている。本講義では、MESH、micro:bit、Arduinoなど実際にいくつかのIoTデバイスの使い方を演習を通して学び、IoTの活用を実践する力を身につける。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	自然言語処理		電子化されたテキストデータを対象に、形態素解析、構文解析、意味解析などの基本的な処理技術について説明し、体系的に学ぶとともに、大規模コーパスの構築・活用や、文章からの特徴抽出などの応用技術についても演習を通して必要な技術や知識を身につけることを目標とする。本講義では、これらの領域における基礎技術、知識について初めに概説する。その後、Python等を用いたプログラミングを含む演習を通じて、実際のテキストデータを処理・分析するスキルを養い理論と実践の両面から理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修A	情報工学科目	VR演習	VR技術は近年注目を集めており、教育や医療、観光など幅広く利用され、人体動作の解析などスポーツ支援にも活用されている。本講義では、現在VRシステム開発で広く使用されているゲームエンジンのUnityを使用したVRアプリケーションの構築方法を学ぶ。またグループ演習として、自分達でVRを応用したアプリケーションのデザインから開発までを行い、簡単なVRシステムの構築方法を理解することを目指す。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	シミュレーションと可視化演習	人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献するには、情報工学の知識が必須で、スポーツに関わるデータ収集および分析においてシミュレーションと可視化は重要な技術である。本演習では、基本的なシミュレーション手法と、そのシミュレーション結果の可視化・分析手法を演習形式で体験することで、シミュレーションとデータ分析の具体的な処理法の理解を目的とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	ゲーム理論	複数のプレイヤーの選択が自身の利害だけではなく、他のプレイヤーの利害に相互に影響を及ぼす状況下で、各プレイヤーがどのように選択を決めるのかについて分析するのがゲーム理論である。ゲーム理論は経済学にとどまらず、さまざまな分野で良く用いられている。もちろん、その中にはスポーツが含まれており、ゲーム理論でスポーツを取り扱った研究もされてきている。この講義ではゲーム理論初学者のために非協力ゲームの基礎部分である、戦略形ゲームにおける純粋戦略と混合戦略のナッシュ均衡、展開形ゲームのサブゲーム完全均衡を中心に取り上げる。練習問題を解きながら丁寧にゲーム理論の考え方を解説していくとともに、学生の理解度を促進させるため、トピックごとに教室内ゲームを実施する予定である。本講義を受講することで、学生自らが自分の興味のある状況をゲームとして定式化し、その均衡を解くことができるようになることを目標とする。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	アダプテッドスポーツと技術支援	障がい者スポーツに代表されるアダプテッドスポーツでは、用具を使用して実施されることが多いため、工学的な技術支援は必要不可欠である。本講義では、用具を含めたアダプテッドスポーツの変遷について理解するとともに、現在の技術支援、将来的な現状支援について考える知識・能力を獲得する。具体的には、ヒトの生体特に解剖学・運動生理学・バイオメカニクスの視点からの障がい者や高齢者の身体運動の理解と最適な用具について材料・構造等の視点から理解する。さらに本講義で学ぶ技術支援の知識を生かし、将来的な技術支援に結びつけるあるいは積極的な技術支援を行う姿勢を養うために、講義の中で未来のアダプテッドスポーツ用具のコンセプトデザイン（概念設計）を行い、受講者のモチベーションも高めていく。コンセプトデザインの具体として、令和8年から11年度は、①球技用車いす②チェアスキー③シットスキー④その他学生のアイデアから再現化する。	
専門科目	選択必修A	情報工学科目	マルチエージェントシミュレーション	現代の健康・スポーツ科学では、ウェアラブルデバイスやIoTセンサーを通じて取得された生体・行動データをリアルタイムに活用する仕組みが急速に発展している。本講義では、こうしたデータがどのようにネットワークを通じて伝送され、処理されているのかを理解することを目的とし、コンピュータネットワークの基本構造やデータ通信の仕組みについて学ぶ。特に、ネットワークシミュレーションツールを用いた実践演習を通じて、データの流れや通信遅延・輻輳などのネットワーク現象を仮想環境で可視化・体験する。これにより、健康・スポーツ分野で扱われるデータがどのように安定的に収集・伝送・分析されるべきかを理解し、自ら設計・評価するための基礎的な技術力を身につける。	
専門科目	選択必修A	専門キャリア科目	健康スポーツ特別講義	この科目はキャリア教育プログラムの一環として、様々なスポーツ業界や公務員など、社会で活躍されている方々を講師としてお招きし、仕事内容、やりがいや苦労などを知るとともに、本学部の学修を通じて習得する知識や技能を自身のキャリアにどのように結びつけるかなど、自身の卒業後のキャリアを考えるきっかけとすることを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (8 石黒えみ/4回) スポーツ活動を行うことによって得られる社会人基礎力、スポーツ産業の分類およびスポーツに関わる仕事にはどんなものがあるのかを概観するとともに、スポーツ行政、子どものスポーツに関わる仕事について学習し理解を深める。 (11 東浦拓郎/4回) スポーツ指導やスポーツ文化・教育の普及、社会を守る警察官や消防官などの仕事について学習し理解を深める。 (12 徐子淵/4回) スポーツイベントマネジメントの観点から、スポーツイベント、プロスポーツ、パラスポーツに関わる仕事について学習し理解を深める。 (8 石黒えみ・11 東浦拓郎・12 徐子淵/1回) (共同) まとめとして、大学生におけるキャリア形成のプロセスについての理解を深める。	オムニバス（一部共同）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修A	専門キャリア科目	オルタナティブスポーツⅠ	<p>スポーツは世界共通の人類の文化であり、参加者はもとより、関わり方、楽しみ方なども多様性に富む。オルタナティブスポーツは、既存のスポーツの先入観や固定観念を脱却し、あらたな価値をスポーツに付加する能力を養うことを目的とする。オルタナティブスポーツⅠでは、eスポーツ、ARスポーツ、スポーツクライミングの3種目を取り上げ、オムニバス方式で学習する。受講学生は、それぞれのスポーツにおいて技術・指導に長けた講師から基本的な技術やルールを学ぶとともに、種目に求められる身体的能力・特性や使用する用具についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) 受講生を3グループに分けて、3種類の競技を順番に取り組む。 初回(1回) イントロダクション講義として共通開講 例) Aグループは、eスポーツ2～5回、ARスポーツ6～9回、スポーツクライミング10～13回 Bグループは、スポーツクライミング2～5回、eスポーツ6～9回、ARスポーツ10～13回 Cグループは、ARスポーツ2～5回、スポーツクライミング6～9回、eスポーツ10～13回</p> <p>eスポーツ担当：坪山義昭 講師 ARスポーツ担当：犬飼博士 講師 スポーツクライミング担当：杉卓洋 講師</p>	オムニバス(一部共同)
専門科目	選択必修A	専門キャリア科目	オルタナティブスポーツⅡ	<p>既存のスポーツの先入観や固定観念を脱却し、あらたな価値をスポーツに付加する能力を養うことを目的とするオルタナティブスポーツⅡでは、障がいスポーツの中からパラリンピック種目となっているボッチャ、ブラインドサッカー、車椅子スポーツの3種目を取り上げ、オムニバス方式で学習する。受講学生は、それぞれのスポーツにおいて技術・指導に長けた講師から基本的な技術やルールを学ぶとともに、種目に求められる身体的能力・特性や使用する用具についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) 受講生を3グループに分けて、3種類の競技を順番に取り組む。 初回(1回)、イントロダクション講義として共通開講 例) Aグループは、ボッチャ2～5回、ブラインドサッカー6～9回、車椅子スポーツ10～13回 Bグループは、車椅子スポーツ2～5回、ボッチャ6～9回、ブラインドサッカー10～13回 Cグループは、ブラインドサッカー2～5回、車椅子スポーツ6～9回、ボッチャ10～13回</p> <p>(2 塩野谷明) 車椅子スポーツを担当</p> <p>ボッチャ担当：岸本太一 講師 ブラインドサッカー担当：山内宏志 講師</p>	オムニバス(一部共同)
専門科目	選択必修A	専門キャリア科目	健康スポーツインターシップ	<p>本授業は、これまで学んできた健康スポーツ領域に関する専門的な知識・スキルを活用し、インターシップに取り組む。授業は、事前学習、インターシップ、事後学習の3部構成で進められる。事前学習では、インターシップ先となる健康スポーツ関連企業・組織について学び、そのビジネス環境や業務内容を理解する。インターシップでは、実際に企業の現場で就業体験を通して、健康スポーツ分野における仕事の流れや企業の仕組み、社会人としての意識を学ぶ。事後学習では、インターシップの経験を振り返り、得られた知識や経験を整理し、それらをどのように自分のキャリアに活かすかを検討する。また、健康スポーツ領域における専門的な知識やスキルを現場でどのように活用できたかを振り返り、実社会での課題解決能力を高めることを目指す。</p>	
専門科目	選択必修A	専門キャリア科目	健康スポーツボランティア活動	<p>人々の健康および豊かなスポーツ活動を支えるためにボランティアは必要不可欠な存在である。本授業では、健康スポーツ領域におけるボランティアの理論と実践について、事前学習、ボランティア活動、事後学習を通じて学ぶ。事前学習では、ボランティアの定義、範囲、制度、特徴、体系について学び、特にスポーツイベントにおけるボランティアの役割を理解する。その上で、実際のボランティア活動を通じて、社会への積極的な貢献のあり方を体験する。事後学習では、活動を振り返り、得られた知識や経験を整理し、うえ、ウェルビーイングな社会の発展に向けて自身がどのように貢献していけるのか、どのようなキャリアを築いていくべきかを考察する。</p>	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツ生理学	<p>スポーツ生理学は、ヒトが身体運動を行なった際、あるいは不活動になった際に生体内でどのような変化が生じているのか、その現象と仕組みを概観する学問である。スポーツ生理学の分野で蓄積されてきた研究成果は、スポーツの競技力を高めるだけではなく、人々の健康の維持増進にも大きく貢献するようになってきた。本授業では、身体を構成する各器官が運動刺激や環境の変化によってどのような影響を受けるのかを学ぶ。そして、一過性、あるいは継続的な運動刺激に対する応答や適応を知ることで、スポーツの現場や他者に対して運動支援を行う際、安全かつ効果的な方法を実践・提供できるようにすることを目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツバイオメカニクス	バイオメカニクスとは、物理学の一分野である力学を基盤とし、スポーツをはじめとする身体運動を科学的に理解する学問領域である。本授業科目では、1年次(2 Semester)に開講された「バイオメカニクス入門」で学んだ基礎数学や機能解剖学の知識を基に、走、跳、投、打、泳といった多様なスポーツ動作の力学的原理を理解することを目指す。また、それらの原理をスポーツ現場やトレーニング、傷害予防などに応用するための基礎的な考え方も習得する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ心理学	本講義では、スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。「競技スポーツ」や「健康スポーツ」という様々なスポーツ場面における「こころ」のあり方や基本的理論を学習し、アスリートや一般の人々の行動変容にどのようにつながるのかを学ぶ。また近年では、アスリートのウェルビーイングやウェルビーイングを獲得するための健康スポーツ活動が注目され、これらに関することについても論じていく。つまり、スポーツ心理学とは、実践的・応用的な学問であるということを理解する。本講義で学んだことは、アスリートとして、健康スポーツに関する様々な分野の従事者として、さらには一人の人間として役に立つものである。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ測定評価学	健康生活活動やウェルビーイングな社会生活活動における健康スポーツに関するデータを測定し、評価するための測定評価学の実践方法を学修する。スポーツ活動や健康スポーツ科学研究において、基礎的な測定評価学手法を適用する実践力を養う。データ授業を展開し、データの測定、分析、評価に関するスキルとリサーチリテラシーを身につける。自己の健康スポーツ生活にみられる現象に測定評価学の研究方法を適用し、測定し、評価し、自己の健康スポーツ生活の特徴を分析する。健康スポーツ科学研究における実験や調査に使用される測定方法と評価方法、心理学的な測定項目や調査項目を作成する方法、体力・運動能力の測定項目を作成する方法を学修する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	ゲーム分析論	競技スポーツにおけるゲーム分析は主としてゲーム(試合)の中で生じる事象を記録してデータ化し、客観的な評価やフィードバックを行うことを目的として行われる。分析に用いられるツールの発展に伴ってデータ化の作業効率は向上しているが、測定項目の選択やデータの解釈が適切でなければ意味のある情報を得ることはできない。「ゲーム分析論」では、ゲーム分析の意義、方法及び留意すべき事項について学習するとともに実際に行われたゲーム分析の事例からゲーム分析の実際について学習する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	トレーニング理論	本授業では、体力トレーニングの原理・原則を理解し、科学的なトレーニング方法論を学ぶことを目的とする。競技者のスポーツパフォーマンス向上を目指したトレーニング理論や、健康・体力増進を目的とした方法論について概説する。まずは既習の生理学、機能解剖学、バイオメカニクスの基礎知識を確認し、筋力、筋肥大、筋パワー、持久力、柔軟性、アジリティといった体力要素のトレーニング法について理論と実践を学ぶ。さらに、体力・運動能力の測定や評価方法、科学的知見に基づく特殊なトレーニング手法についても扱う。本授業を通じて、競技や日常生活における合理的で効果的なトレーニング計画を立案する能力を養い、健康増進や競技力向上に貢献する課題解決力を身につけることを目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツデータによるコーチングI	競技スポーツでは、アスリートが中心であることは言うまでもない。しかし、コーチの存在がなければ、技術・技能の獲得、それに伴う競技力向上、そしてアスリート自身の成長は成しえない。優秀なコーチは、様々なことを日々学んでいる。これまで、経験則のみのコーチングが見られるケースがあった。しかし、近年のコーチングは、経験則プラス、様々な「スポーツデータ」の知識とその活用が必須である。本講義でのコーチングとは、競技スポーツに限定するものではなく、健康・教育・レクリエーション等にも通じるものとして捉えている。本講義では基本的な「スポーツデータ」の活用について学び、またコーチとしての重要な行動・態度・姿勢等についても論じる。本講義で学んだことは、コーチングに限らず、様々な分野・領域に応用できるということも理解する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツアナリティクス	近年の競技スポーツの現場では、スポーツに関するデータを測定・分析し、選手やチームの目的達成をサポートする活動(スポーツアナリティクス)が盛んに行われている。また、その専門家(スポーツアナリスト)の需要も増えている。そのような背景を受けて、本科目ではスポーツアナリティクスの全体像の理解を目的とする。具体的には、選手やチームの問題発見、データ収集、データ分析、フィードバックというスポーツアナリティクスのワークフローを理解し、それぞれに求められる技能についての理解を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツメンタルトレーニング	本講義では、スポーツ心理学の理論を基に、アスリートの競技力向上や一般の人たちのパフォーマンス（学業や仕事等）の向上に関わるスポーツメンタルトレーニングの理論や実践について学ぶ。スポーツメンタルトレーニングは、アスリートの心理的問題・課題を克服するためのものとして発展してきた。しかし、それらの問題・課題は、最終的には「一人の人間として」というものに根ざしている。このことを理解しながら、競技スポーツの中で行われているスポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、ストレスマネジメント、その他の心理学の分野について、心理検査や技法（実技）等を体験しながら学習を進めていく。また、チームや集団にも適応・応用できるということも学ぶ。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	eスポーツ概論	古代の狩猟・採取社会の走る・投げるといった身体技術が個人スポーツになったように、コミュニティを形成する中世の社会からはチームワークを使ったチームスポーツが、産業革命を背景とした工業社会からはモータースポーツやサイクルスポーツが誕生した。産業技術に「遊び」や「競争」の要素が加わることでスポーツ化する歴史のなか、現代の情報化社会の情報機器によっておこなわれている「遊び」や「競争」がeスポーツである。「eスポーツ概論」では、「スポーツ」とは異なる理論的体系や歴史を持つ「ゲーム」に注目し、ゲーム理論の提唱者ジョン・フォン・ノイマンが開発したパーソナルコンピュータを起点とするデータやデジタル技術の活用による社会の発展について理解するための教養を身につけ、情報技術がコモディティ化した現代社会における新たな「スポーツ」による健康実現について理解を深める。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	域スポーツパフォーマンス領域	スポーツゲーム戦術論	競技スポーツのゲーム（試合）において勝利をおさめるためには状況に応じた効果的な戦術の選択と遂行が求められる。また、どのような戦術が効果的であるかを理解し、合理的な戦術選択を行うためには戦術の客観的な評価が必要になる。「スポーツゲーム戦術論」では、競技スポーツのゲームにおいて用いられる戦術を客観的に評価する際に必要となるデータの取得及び分析の方法を学習するとともに実際に行われた分析の事例から戦術の効果や戦術選択に影響を与える因子について学習する。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	域スポーツパフォーマンス領域	スポーツデータによるコーチングⅡ	本講義では、「スポーツデータによるコーチングⅠ」で得たことを基本とし、さらに応用的なものを学ぶ。「スポーツデータ」には、量的、質的、映像等様々なものがあり、それらの具体的な活用について学習する。例えば、「心拍数という生理的なデータ（数値）と感情や気分といった心理的なものがどのように関係しているのか、それがアスリートのパフォーマンスやコーチングにどのように関わっているのか」について学びを深める。本講義で述べるコーチングとは、Ⅰで述べた通り、競技スポーツに限定するものではなく、健康・教育・レクリエーション等多様な領域に通じるものとして捉えている。本講義を通して、「スポーツデータ」がどのように活用できるのかを熟考し、それがスポーツの現場にどのように有用なのか、コーチングにどのように応用できるのかを理解する。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	域スポーツパフォーマンス領域	生体情報によるコンディショニング	コンディショニングは健康の維持増進、優れたスポーツパフォーマンスの発揮やトレーニング効果を高める上で重要である。近年、ICT（情報通信技術）の急速な発展に伴い、衣服型や腕時計型などの小型ウェアラブルセンサーを身につけることで、移動距離や移動軌跡、走行速度、心拍数、睡眠状況をはじめ、様々な生体情報の計測が簡便に行うことができ、客観的かつ多角的なコンディション評価が可能になった。この科目では、生体情報を活用したコンディショニングの在り方について学修することを目的とする。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	域スポーツパフォーマンス領域	スポーツ動作解析演習Ⅰ	身体運動のデータを正しく計測し、解析するための基礎を学ぶ。まず、計測機器の基本的な取り扱いを学び、正確なデータを得るための方法を理解する。また、得られたデータを適切に解析するためのツールを知り、日常生活動作やスポーツのパフォーマンスを客観的に評価するための一連の手続きを身につけることを目的とする。後の専門的かつ複雑な各種スポーツ動作を分析するために、アスリートの映像や受講生自身のデータを用いて、動作解析の基礎的な知識を身につける。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	域スポーツパフォーマンス領域	スポーツ映像解析演習Ⅰ	競技スポーツにおけるゲーム分析ではゲーム（試合）の映像から得られる情報を目的に応じて抽出し、分析を行う。近年ではスポーツのゲーム分析専用の映像解析ツールを用いることが一般的になっており、スポーツアナリストやスポーツ指導者を目指す者は、その操作法や映像解析ツールを用いた分析手法を習得しておくことが望ましい。「スポーツ映像解析演習Ⅰ」では、競技スポーツのゲーム分析に用いられる映像解析ツールの操作法及び映像解析ツールを用いた基礎的なゲーム分析の手法を演習形式で学習する。

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ動作解析演習Ⅱ	本授業では、スポーツ映像分析ソフト「ダートフィッシュ」を用い、スポーツ動作の撮影および分析を実習形式で行う。2年次(4セメスター)で既習の「スポーツ動作解析演習Ⅰ」では、ダートフィッシュによる分析に重点を置いていたが、本授業では撮影と分析の両方を実践することを重視している。はじめに、スポーツにおける動作分析を目的とした動画撮影の手法を学ぶ。カメラや動画の基本的な仕組みを理解し、ハイスピード撮影を含む撮影技術を習得する。次に、走・投・打・器械運動など毎回のテーマに関するさまざまなスポーツ動作を対象に撮影および分析を行う。後半では、受講者自身が撮影および分析のテーマを考案し、グループワークを通じてテーマと実施計画の検討、撮影、分析、プレゼンテーション準備を行う。最終的には分析結果を発表する演習形式で進め、映像を活用したスポーツ動作解析の実践的スキルを身につけることを目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ映像解析演習Ⅱ	スポーツのゲーム分析専用の映像解析ツールを用いることにより、ゲーム(試合)の映像から多くの事象を容易にデータ化することが可能となっている。しかし、単に多くの事象をデータ化だけでは意味のある情報を取得することや、その情報を必要とする相手に伝達することはできない。「スポーツ映像解析演習Ⅱ」では、「スポーツ映像解析演習Ⅰ」で習得した映像解析ツールの操作法や基礎的なゲーム分析の手法を前提として、目的に応じた測定項目の選定からデータの分析、分析レポートの作成及びプレゼンテーションまでの一連の過程を演習形式で学習する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ生理学演習Ⅰ	「スポーツ生理学演習Ⅰ」では、「スポーツ生理学」の授業で学んだ知識をもとに、その研究手法である実験・測定を通して、身体の構成要素や運動負荷に対する生体の応答や適応を理解するための知識と技能を身につける。正しいデータの入手方法を学習し、得られたデータを加工、分析、評価まで行う一連のプロセスを通してリサーチセラシーを身につける。正確にデータを取得するために測定機器の取り扱いや、互いに被験者と験者として測定することで、研究を行う際の生命倫理や人権に対する配慮、そして安全対策の方法を習得する。 (オムニバス方式・共同(一部) / 全13回) (14 松本晃裕 / 3回) 運動負荷試験の意義や手順、危険性などについて医学的な視点から講義を行い、実際にトレッドミルと自転車エルゴメータを用いながら運動負荷試験を行う。そして、その際の生体データ(心拍数、RPEなど)の変化を観察する。 (4 長浜尚史 / 7回) 呼気ガス分析の意義について講義を行い、実際に運動負荷試験中の呼気ガスを採取することで、最大酸素摂取量と換気閾値を求め、次に、形態測定として一般的に実施されている体脂肪率を、キャリパー法とBI法で求め、身体組成測定の生理学的意義を考える。 (4 長浜尚史・14 松本晃裕 / 3回) (共同) 1回: ガイダンスとして、この演習のねらいや、安全に実験を実施するための留意点などを説明する。 12 13回: 総合討論とまとめとして、実際に行った測定結果を発表したり、スポーツ生理学の手法を用いた測定の意義を確認し、最後に実験ノートを提出させる。	オムニバス・共同(一部)
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ心理学演習Ⅰ	スポーツ動作を行う際には、視覚や聴覚、皮膚感覚や筋感覚など、様々な感覚情報を通じて周囲の状況や自身の身体状況を把握し、目的に応じた運動指令を脳から出力し、運動神経を介して骨格筋に伝えることで骨格筋が収縮し、目的とする動作が発現する。スポーツ生理学演習Ⅱでは、このようなスポーツ動作の発現、調節に関わる神経-筋機能のはたらきと仕組み、そしてスポーツ活動やトレーニングによって生じる変化をテーマとし、各種測定・分析、ディスカッション、レポート作成を通じて理解を深めることを目的とする。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ指導論Ⅰ	トレーニングの諸要素と原理・原則を理解し、スポーツの指導方法を学ぶことを目的とする。さらに各種スポーツのトレーニング方法を検証する。スポーツに求められる心理、技術、体力、情報、戦術の概念を知り、その要素と指導との関係を明確にした上で、計画立案をする。映像及び資料に基づいて「スポーツマンシップ」「トレーニングの原理・原則」「超回復」「ピリオダイゼーション」を理解する。測定や調査により、データに基づいた練習計画を実施する。他競技及び競技者との交流、意見交換を行い、指導方法を検証する。スポーツトレーニングの科学的背景を知り、競技力と指導に生かす具体的な方法を理解できる。スポーツマンシップを理解し、実践することができる。他競技の特性等をグループワークなどで検証し、自身が応用力を身につけることができる。測定等データを活用して実践及び指導ができる。	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	身体表現論	私たちの身体は、表情、視線、姿勢、身振り手振りなど、言葉と同様に、時にはそれ以上に伝えることが可能である。身体を非言語情報として伝えられる身体表現はコミュニケーションツールの重要な一つでもあり、様式化された身体表現である舞踊・ダンスは、その人個々の伝えたいことだけでなく、自然や社会、文化さえも伝えることができる形象である。身体表現および日本と世界における様々な舞踊を理解することで、感性やイメージ力を磨き、人が伝えようとするモノコトに対して豊かに想像し、知ろうとする意欲や姿勢を育む。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ生理学演習Ⅱ	スポーツ動作を行う際には、視覚や聴覚、皮膚感覚や筋感覚など、様々な感覚情報を通じて周囲の状況や自身の身体状況を把握し、目的に応じた運動指令を脳から出力し、運動神経を介して骨格筋に伝えることで骨格筋が収縮し、目的とする動作が発現する。スポーツ生理学演習Ⅱでは、このようなスポーツ動作の発現、調節に関わる神経-筋機能のはたらきと仕組み、そしてスポーツ活動やトレーニングによって生じる変化をテーマとし、各種測定・分析、ディスカッション、レポート作成を通じて理解を深めることを目的とする。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ心理学演習Ⅱ	スポーツにおける様々な動作や行動は、人の意識または無意識の中の心理などが深く関わっており、影響を及ぼしている。スポーツにおける心と身体（動作、パフォーマンスなど）との関係について、客観的指標をもって明らかにする方法、それより得られたデータを解釈し、分析する方法を修得することを目標とする。スポーツ心理学の研究法の中でも、実験法および質問紙調査（Webを用いた調査を含む）法について、実際に体験しながら学び、量的研究の理解を深める。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツバイオメカニクス演習	スポーツバイオメカニクスとは、物理学の一分野である力学を基盤とし、スポーツをはじめとする身体運動を科学的に理解する学問領域である。本授業は、1年次（2セメスター）の「バイオメカニクス入門」および2年次（3セメスター）の「スポーツバイオメカニクス」で学んだ基礎知識を応用し、モーションキャプチャシステムやフォースプレートなどの測定機器を用いてスポーツ動作の実験および解析を行う。受講者は、測定機器の操作や設定方法を学ぶとともに、身体重心や各部位の角度、角速度、モーメント、パワーといったバイオメカニクス変数の算出方法を習得することを目指す。さらに、データ収集から解析、考察、レポート作成、発表に至るまでのプロセスを通じて、スポーツ動作の科学的理解を深め、課題解決能力を実践的に養成する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツゲームアナリティクス応用演習	近年の競技スポーツの現場では、データを測定・分析し、選手やチームの目的達成をサポートする活動（スポーツアナリティクス）が活発化しており、特に球技はその傾向が強い。しかしながら、現場で通用するスポーツアナリティクスの方法論を理解し、実践できる人材は限られており、そのスキルの修得が望まれている。本科目では、球技系種目を中心としたゲームアナリティクスを実践的に学習し、その方法論を修得することを目指す。また、スポーツアナリティクスの研究に通ずるデータの測定、蓄積、加工、分析、フィードバックに関する実践力を養う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツパフォーマンス領域	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導論Ⅰを踏まえ、さらにスポーツ技術及び戦術を分析し、その指導方法を理解する。各種スポーツの競技力向上における戦術理論を紹介し、トップアスリートの指導方法を学ぶ。様々なスポーツ競技に関する科学的知見をスライドやビデオを用い紹介しながら、それらの技術的特性、戦術的特性などを解説し、獲得の方法を学ぶ。映像及び資料に基づいて各種テーマ「オープンスキルとクローズドスキル」「オンザボール・オフザボール」「ゲームとスタッツ」「コーディネーショントレーニング」「一貫指導システム」等を学び、自身の競技力向上と指導方法を計画する。測定や調査により、データに基づいた練習計画を実施する。他競技及び競技者との交流、意見交換を行い、指導方法を検証する。各種競技の特性と技術・戦術を理解できる。技術・戦術を分析することで競技力や指導力に応用できる。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	救急法	スポーツや運動は生活習慣病を予防し健康を増進させるが、時には外傷や疾病を引き起こす可能性がある。スポーツ中あるいは日常生活においてショック状態、意識障害のある者や受傷者に遭遇することがありえるが、その際は直ちに適切な処置を行う必要がある。本講義では主にスポーツ・運動中に生じる心停止・意識障害・熱中症・外傷などを取り上げ、それがどのような疾患・原因で生じるのかについて説明する。またスポーツの継続の可否の判断や、病院への受診の必要性なども説明する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	栄養学入門	本授業では、栄養の概念や基礎となる五大栄養素を実際の食生活に結びつけながら、学生自身が毎日の食事で心身の状態を良好にし、充実した日常生活を送れるように学習を深めていく。また栄養素の種類や主な働きなどは実際の食品と関連させて、例えばその栄養素をとるにはどんな食品を選ばよいか、その食品をとることで身体にはどのような働きがあるのか、摂取量の過不足の影響などをわかりやすく学んでいく。それによって健康の保持・増進、疾病の予防・回復がはかれるように栄養学の基礎を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	障がいの理解	障がいの基本的な考え方の上に、障害のある人を理解するため、障害者の心理や身体機能に関する様々な障害（身体障害、精神障害、知的・発達障害、難病など）の種類や原因、特性を学んでいく。また、本講義ではこれらの「知見」を理解することに留まらず、障がい者との「かかわり」という実践的な取り組みの経過・結果を考えながら理解し、「行動するマインド」や「知見」を活かす「知恵」（知見やマインドを活かした臨機応変な現場対応等）」を身につけることを目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	スポーツ栄養学	「栄養学入門」で学んだ基礎を生かして、運動やスポーツによって身体活動量が多くなる場合の栄養学を学ぶ。運動やスポーツをすることで消費したエネルギーに対して必要な栄養素はどのくらいか、そのためには何をどのくらい食べればよいのか、またいつ食べればよいかというタイミングも考慮することで効率の良い栄養摂取をすることができる。スポーツ栄養学は年齢だけでなく、競技内容やレベルなども考慮しなければならないが、過不足なく食事が摂取できることで怪我の予防や回復になり、パフォーマンスのアップにつながる。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	スポーツ医学	スポーツ・運動は健康を増進させるが、時には外傷や疾病を引き起こす可能性がある。本講義ではスポーツ中に生じる内科、整形外科などの疾患を取り上げる。具体的には急性心筋梗塞、不整脈などの突然死を引き起こす疾患、運動誘発性喘息、運動性貧血、熱中症などの内科疾患と、外傷、整形外科疾患を取り上げるが、こうした疾病や外傷を予防する方法も取り上げる。本講義の主な目標は、スポーツ医学の知識を習得することにより、スポーツ選手やスポーツ指導者が競技能力の向上や、スポーツによる疾患や外傷を予防できるようにすることである。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	学校保健概論	心の健康、性に関する問題、喫煙・飲酒、薬物乱用、食生活の問題、感染症など、現代の児童生徒を取り巻く学校保健上の課題は多様化している。本授業では、学校保健の意義と目的、学校保健の各領域および具体的内容（保健管理・保健教育・組織活動）、子どもの発育・発達と健康課題について学び、生涯にわたり心身の健康を保持・増進するための資質や能力をどのように育成するかについて理解を深める。これにより、児童生徒の健康保持・増進に主体的に貢献できる知識や技能を養うことを目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	アダプテッドスポーツ論	スポーツを通して、自分の役割や活動目的を理解し、集団の中でコミュニケーションスキルを身につけたり、スポーツを「する」「観る」「考える」楽しさや喜びを感じたりして、他者に伝えられるようになることを目指す。老若男女、障害の有無を問わず、スポーツを通じたコミュニケーションの機会を大切にし、体育・スポーツが得意な人も不得意な人も、一緒に楽しむための工夫を学ぶことができる。社会生活の中で実践する「対話力（コミュニケーション）」「協働力（コレクティブ）」「創造力（クリエイティブ）」「表現力（主にクリティカル）」を育成することを目的に、実技も交えながら、スポーツを通して社会に貢献する力を身につける授業である。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	スポーツ発育発達学	健康生活活動やウェルビーイングな社会生活活動の基盤となるヒトの身体発育とスポーツ活動を支える体力・運動能力の発達を学習する。スポーツ活動や健康スポーツ科学研究において、基礎的な発育発達学手法を適用する実践力を養う。データ授業を展開し、データ収集や分析に関するスキルとリサーチリテラシーを身につける。自己の発育データを収集し、発育発達学の研究方法を適用し、自己の身体発育の特徴を分析する。出生時から高齢期までの生涯にわたる体格の発育と体力・運動能力の発達の特徴と研究方法、アスリートに必要な専門的な体力・運動能力の発達の特徴と研究方法、子どもの体力・運動能力と運動習慣の向上に関わる取り組みと調査方法を学習する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	スポーツ栄養学演習	スポーツ栄養学で学んだことを実際の競技にあてはめて実践できる力を養う。そのために日本代表やプロチームなどトップアスリートの実例をあげながら現状と課題について考えていく。その上で、その課題を解決するためにはどうしたらよいのか方法や内容を考え、ツールなどを作成し、実際の指導を行う。また筋肉量などの身体組成を考慮したり、コンビニなどを利用した補食のとり方、夏バテなど症状別の対応なども学び、スポーツしている学生はもちろんのこと、そうでない学生も実際の食生活に役立つ学習をしていく。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	公衆衛生学	超少子高齢社会における生涯を通じた健康生活の実現には、社会と健康との関係、主要な健康課題、疾病予防と健康の保持増進、健康を支える環境などについて理解することが不可欠である。本授業では、公衆衛生の概念、健康の概念と健康の決定要因、疫学、保健医療統計、保健医療制度と保健政策、生活習慣病と保健行動、各ライフステージにおける健康課題と保健事業などを学ぶ。これにより、疾病予防と健康の保持増進の実践、および健康を支援する環境づくりに取り組む上で必要な知識と技能を養うことをめざす。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	運動処方論	運動・身体活動は、心身の健康に重要な要素のひとつである。安全で効果的な運動・身体活動の量や質は個人によって異なるため、薬の処方と同様に、運動の処方が必要となる。自己を含めた人々の健康の維持・向上に貢献できる能力を身につけることができるよう、本授業では、健康な人だけではなく生活習慣病（肥満、高血糖、高血圧、脂質異常症、ロコモティブシンドローム）や服薬者を対象とした運動処方を扱う。健康と運動・身体活動の関係を理解し、運動処方のあり方を科学的・体系的に理解する。	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	ヘルスデータ処理演習	科学的根拠に基づいた健康づくりを実践するためには、集団における健康事象の頻度や分布の特徴を正しく理解し、それらに影響を及ぼす要因を科学的に解明する能力が不可欠である。本授業では、Excelおよび統計ソフトを用いて、データの収集、データクリーニング、統計手法の選択、各種統計処理と結果の解釈といったデータ分析の一連の流れを実践的に学ぶ。さらに、各種データに適したグラフや表の作成方法、健康・医療データの利活用についても学ぶ。これにより、あらゆる健康問題の解決に向けたデータ活用能力やリサーチリテラシーを養うことを目指す。本授業は、コンピュータ演習室で実際に機器を操作しながら進める。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	スポーツとジェンダー	本授業では、歴史的、社会的背景を紐解きながら、スポーツとジェンダーについて学習する。女性の五輪への出場や活躍が「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー」（社会・文化的側面）、「セクシャリティ」（生理学的・解剖学的側面）など、「多様性」についての基礎知識を学び、その概要をつかむ。DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）という言葉が台頭し、近年、様々な場面で「多様性」を柔軟に受け止め適応していくことが求められるようになっている。そこで、日本ならびに諸外国の多様性とスポーツに関連した事例を通して、今後の多様性とスポーツの可能性について考え、自分の意見を述べられるようにする。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	ヘルスフィールドワーク	健康づくりを実践する際には、集団の特性や人々が直面する健康課題、そして現在行われている支援内容など、地域の実態をよく理解することが重要である。本授業では、保健統計データの分析に加え、健康に関するフィールドワーク（インタビュー調査、健康づくり活動の見学や参加など）を通じて、地域における健康づくりのプロセスを実践的に学ぶ。また、調査や見学を通じて得た知見をもとに、地域住民の健康支援策についてグループワークを行い、考察を深める。これにより、他者と協力しながら人々の健康の実現とウェルビーイングな社会の発展に主体的に貢献するための資質を養うことを目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	ヘルスマネジメント	中高年の日本人では糖尿病、高血圧症、虚血性心疾患などの生活習慣病を有している者が多く、生活習慣病の予防や改善のために運動をすることが必要である。しかし、時にスポーツ中の突然死などを生じることもあるので、中高年者はこれらの病気を十分に理解して、健康面で安全にスポーツ・運動を行う必要がある。また運動指導者は中高年者に運動を指導する際には、安全に配慮しながら運動を適切に指導ができる必要がある。本講義では生活習慣病とスポーツにおける注意点などを詳細で実践的に説明をし、中高年者の運動指導をする際に、適切にできるための知識や能力を修得できることを目標とする。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	健康社会学	人々の健康問題には、個人の行動・心理的要因や家族、地域、職場、法律や政策などさまざまな社会環境要因が関わっている。健康を保持し、生活をより良いものにしていく上では、これらに関する多角的な知識と問題解決能力を獲得する必要がある。本授業では、健康と予防の概念、ヘルスプロモーション、健康と行動・心理・社会環境の関係についての理論、非感染性疾患と生活習慣、保健行政と健康づくり政策などについて学ぶ。そして、誕生から高齢期までの各ライフステージにおける健康問題とその解決に向けた取り組みについて理解する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	ヘルスプロモーション領域	健康社会学演習	健康社会学研究は、健康と生活の問題に関わる行動・心理・社会的要因を解明し、問題解決への実践的示唆を提供するものである。したがって、ある程度の生物医学的基礎知識の上に、行動・心理・社会に関する理論と社会調査法・疫学研究法を用いて複眼的・多角的に検討する。本授業では主観的健康（身体・精神）、行動、心理社会的要因の測定尺度について理解した上で、近時のトピックをとりあげて文献講読と議論を行う。これによって、健康と生活の問題解決に資する論理的思考力と実証検討スキルを習得する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツビジネス入門	本授業は、スポーツビジネスの現状を理解するための入門科目である。授業は、ゲストスピーカーの講演と学生のプレゼンテーションを中心に構成されており、スポーツ業界における多様な分野を学び、実際のビジネスの現場を知ることが目的としている。ゲストスピーカーの講演を通じて、各業界のビジネス戦略やマーケティング手法、業界の動向や課題について学び、スポーツビジネスにおける実践的な知識を深めていく。また、学生プレゼンテーションでは、当該産業領域の統計データ等を用いてトレンドを発表し、データ分析を通じて業界の動向を把握するとともに、プレゼンテーションスキルを磨いていく。	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツマネジメント論	スポーツマネジメントという言葉は、今や日常会話の中でもごく自然に使われ、便利な「パスワード」のように広く浸透している。そのため、ある人はプロスポーツクラブ・球団の「経営」をイメージしたり、また、ある人はスポーツ施設やスポーツレッスン、イベントなどのスポーツ活動の場や機会を創る「事業」という意味で用いたり、その定義や意味は実に多様である。スポーツにおけるマネジメントの基本的な考え方や、それがスポーツ現場でどのように適用されているかについて学習することを目標としている。授業内容はスポーツ組織のマネジメント、子どものスポーツマネジメント、スポーツによる地域活性化、スポーツファシリティマネジメント、プロスポーツのマネジメント、スポーツイベント等である。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	暮らしのなかの憲法*	日本国憲法は教育基本法及び学校教育法の基礎となるもので、教育に携わるものとして、その基本的な内容を十分に理解しておくことが必須である。本科目は、教職に就くことをめざす者として理解を深めておかなければならない憲法の基本部分を学ぶ。基本的な人権の尊重、国民主権及び平和主義の三つを基本原則とする憲法の基本的性格を確認し、国会、内閣、裁判所などの政治機構の概略を正確に理解し、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義などについて理解を深める。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツと法	本授業は、スポーツ界で発生する多様な法的問題を題材に、法律知識とその活用方法を学び、法的視点からの解決策や予防策を考える能力を養うことを目的とする。具体的には、特徴的なスポーツ紛争の裁判例や仲裁事例を通じて、スポーツに関わる法の体系を理解し、実務に役立つ法的思考力やマネジメント力を身につける。これにより、スポーツ分野における適切な意思決定やトラブル対応を可能にし、健全で公平なスポーツ環境の構築に貢献できる人材の育成を目指す。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツ政策論	スポーツ政策は国内のスポーツ推進の在り方の根幹をなす重要な領域である。本授業は、スポーツ政策に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。具体的には日本のスポーツ政策の歴史・現状・関連法律の概要、スポーツ政策のアクターである政府・自治体・スポーツ団体・民間企業・スポーツクラブ等の実態と役割について幅広く理解を深めていく。さらに、近年注目が高まっているEBPM (Evidence-Based Policy Making : 証拠・エビデンスに基づいた政策形成) にも焦点を当て、スポーツ政策におけるEBPM実践のためのデータ収集・分析方法の実際についても学んでいく。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツ産業論	スポーツ産業は、①スポーツ用品産業②スポーツ施設・空間産業③スポーツサービス・情報産業の伝統的な3領域を中心に発展を遂げてきた。それまで個別に存在していた3つの領域が規模を拡大するにつれてそれぞれの領域が互いに重なり新しい複合的な産業領域が出現した。④スポーツ関連流通業⑤施設空間マネジメント産業⑥ハイブリット産業である。さらに近年では、「食・栄養」「医療」「健康」「ファッション」「観光」「eスポーツ」といった関連領域とのつながりを見せ、さらなる発展を遂げている。本科目はスポーツ産業の概要、現状および展望について学習し理解することを目標とする導入科目である。スポーツ産業の定義、範囲、モデル等の基礎的な知識、特徴、および体系を理解し、現場の事例を通して実務についても学習する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツマーケティング論	スポーツマーケティング論は、スポーツをビジネスの視点から捉え、マーケティングの理論と実践を学ぶ講義であり、「スポーツのマーケティング」と「スポーツによるマーケティング」という2つの視点から、スポーツ産業の成長を支えるマーケティングの基礎的な知識について学習する。前者については、スポーツ消費者の特性やニーズを把握し、競技の観戦や参加といった消費行動に対応するサービスの設計や提供戦略を学ぶ。後者については、企業がスポーツを活用して行うプロモーション活動、特にスポンサーシップについての知識を習得する。講義では、国内外の様々な事例の分析やグループディスカッションを通じて、スポーツビジネスやマーケティングの実践的な課題解決力や戦略的思考を養成する。これらを通して、スポーツ業界でキャリアを築くために必要不可欠なマーケティングに関する知識・スキルを身につけて行く。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツ社会学	本授業は、スポーツと社会との関わりを社会学的視点から考察し、文化現象としてのスポーツを多角的に理解することを目的とする。スポーツが社会に与える影響や、現代スポーツが抱える諸課題を取り上げ、他者の見解を踏まえつつ、自らの考えを相対化し批評する力を養う。これにより、スポーツと社会の関係を体系的に把握し、課題解決に必要な思考力を身につけるとともに、健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツ施設マネジメント論	21世紀になりスポーツをどのようにマネジメントするかが課題とされる時代になった。その傾向は特にスポーツ施設において顕著となった。これまで「する」ためのスポーツ施設整備が活発に進められてきたが、「場所を貸す」だけの施設運営が主となる中、施設の収益性についてはあまり語られることはなかった。2015年にスポーツ庁が設立されてからは、プロスポーツ観戦などの「観る」スポーツがスポーツを地域産業のさまざまな分野を活性化させる成長産業として捉えなおされている。その基盤となるスタジアムやアリーナを「稼げる」施設へと見直そうという「スタジアム・アリーナ改革」が進められている。授業の内容は、「する」ためのスポーツ施設と「観る」ためのスポーツ施設のマネジメントについて、基本的考え方を学習することを目的とする。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツキャリア演習	本授業は、スポーツ関連企業・組織との連携のもと講義および実習形式で進められ、スポーツ現場におけるサービスの実践的技術およびオペレーションについて理解することを目標としている。授業は事前学習、講義・実習、実地研修、プレゼンテーションの4部構成であり、当該組織の事業概要・ビジネスモデルを理解したうえで接客サービス、営業等の業務の他、マーケティングリサーチおよびリサーチ結果に基づいた企画提案に取り組む。具体的には、調査目的・調査項目・ターゲット層選定等の調査企画、データ収集、分析を行い、それらを踏まえた企画を考案し連携先組織に提案する。これらの体験を通し、業界の動向を理解し、自身のキャリア・適性を検討する機会として活用する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	リーダーシップ論	本講義では、リーダーシップ、フォロワーシップ、チームの構造等について学ぶ。スポーツは、個人競技/チーム競技と分けられるが、いずれも集団として活動する。集団が形成されれば、リーダーが必要になり、そのリーダーを支えるフォロワーが存在する。また、リーダーには多様な役割があり、それらが効果的に機能することで、チームの成員（メンバー）間の関係性が良好になる。本講義では、リーダーシップ論にとどまらず、フォロワーシップ、チームの構造、チームビルディング等について学び、「優れたチームとは？」ということについても論じる。本講義で学んだことは、今後属する様々な組織で応用・活用できるものである。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツとまちづくり	2016年にスポーツ庁が公表した新しいスポーツ施設の在り方「スマート・ベニュー」では、周辺のエリアマネジメントを含む複合的な機能を組み合わせサステナブルな交流施設としてスポーツ施設が機能することで、施設そのものだけでなくエリア全体のまちづくりへ繋げるスポーツのあり方が示された。「する」、「観る」、「ささえる」といった従来のスポーツへの関わり方に加え「つくる／はぐくむ」、「集まり、ともにつながる」、「誰もがアクセスできる」といった新しい視点を加え、「スポーツとまちづくり」に対する知識を深めるとともに、自分なりの考えを述べるができるようになることを目的としている。スポーツが都市や地域に与える多様な社会価値に対する理解とともに、自己実現と他者との共創を実現するインクルーシブな社会を実現するための柔軟な思考・判断について身につける。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	スポーツキャリアデザイン領域	スポーツツーリズム演習	本授業では、スポーツと観光を融合した新たな分野であるスポーツツーリズムを実習形式により実践的に学ぶ。授業は、事前学習、フィールドワーク（ツアー体験）、事後学習（評価）の3部構成で進められる。事前学習では、自治体・関連組織へのヒアリングやスポーツツーリズムに関するデータや統計資料の分析を通じて、地域の現状や課題を把握する。その知見を基に学生自身がツアープランニングを行い、フィールドワークとして実際にプランを体験する。事後学習では、ツアー体験に基づき、地域活性化や観光客の健康促進などの効果を評価し、地域の持続可能な発展に向けた改善提案を行う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(陸上競技)	本授業は、陸上競技における走・跳・投の基本技術と理論を習得し、各種目の動作を正確に示範できるようになることを目的とする。短距離走やリレー、ハードル、中・長距離走、跳躍種目（走幅跳、走高跳）、投擲種目（砲丸投）などを通じて、競技技術の向上を図るとともに、トレーニング方法や競技ルールについても学ぶ。実技を中心とした授業を展開し、各種目で必要な技術や知識を体系的に身につけることで、陸上競技の幅広い理解と実践力を養う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(水泳)	私たちの身の回りにはプール（民間、公的機関を問わず）、川、海など「水」、「アクア」に接する機会は意外と多い。そのような恵まれた環境に関わらず、「水」の様々な特性について理解が乏しいため、「水泳」に対する嫌悪や「水」の事故が起こる現状がある。この講義では、「水」と「人の体」の様々な特性について実践を通じて、理解するとともに、最大限に活かす方法について、浮き姿勢や4泳法実践を通じて学ぶ。また、身近にある「水」を活用したスポーツ・運動を生涯のツール・ユーティリティのひとつとするために、様々な対象者へ指導できる特性の理解と実践によって指導法を学ぶ。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(ダンスⅠ)		本授業では、エアロビックダンスを中心としたグループエクササイズの基本動作やプログラム構成、指導法を実技を通じて学び、健康増進のための運動に対する理解を深める。ローインパクトからハイインパクトへの発展的なステップ練習や、運動強度の調整方法、音源を活用したプログラミングを学習する。また、適切な動作姿勢や明確なキューイングなど、指導者としてのプレゼンテーションスキルの向上を図り、最終的に実技試験を通じて習得した知識と技術を実践に結びつける力を養う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(バスケットボール)		バスケットボールは数ある球技スポーツ種目の中でもとりわけ競技人口の多い種目であり、世界各国で男女を問わず競技が行われている。また、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領においては、ゴール型の球技として取り扱う種目の一つとして示されている。「体育実技総合(バスケットボール)」では、保健体育科の教員やスポーツ指導者としてバスケットボールを指導する上で習得しておくべき基本的な知識及び技術並びにそれらの指導法を実技の実践を通じて学習する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(バレーボール)		はじめに、受講生間で協調して学び合うような関係性を活かして、バレーボールの基礎技術の習得とボールコントロール感覚を元にした実践力の向上を目指す。また、このゲームにおいて最も重要なチームワークを積極的に作り上げることで、バレーボールゲームの楽しさを相互に享受していく。そして、基礎技術について受講生の技術習得の水準を評価するために、授業の最後に実技試験を実施し、確認する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(体づくり運動・器械運動)		本授業では「マット運動」と「跳び箱運動」の内容を取り扱う。体づくり運動の内容と目的を理解し、実践できるようにする。また、マット運動の回転系や巧技系の基本的な技、跳び箱運動の繰り返し系や回転系の基本的な技ができるようになるとともに、その指導方法を理解できるようにする。 中学校・高等学校保健体育科教員として「器械運動」を指導する際に最低限必要な技能を習得するとともに、その指導方法を学習する。また、課題として設定された「技」を行うために必要な筋力や柔軟性を養うための体づくり運動を実践し、体力の向上を図る。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(ダンスⅡ)		本授業では、エアロビックダンスを中心に、実践的なプログラム作成能力と運動強度の調整、さらに指導技術の向上を目指す。前提となる「体育実技総合(ダンスⅠ)」での学習内容を基に、32カウントシンメトリコンビネーションのプログラミングや指導法、運動強度の調整方法を習得する。加えて、指導者に求められる資質や「指導の循環」を取り入れた実践的な指導スキルを磨き、資格取得も視野に入れた高度な指導力を養う。最終的に、実技試験を通じて応用力を評価する。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(柔道)		本授業は、柔道の基本動作や技術(受け身、投技、固技)の習得を通じて、柔道の特性や安全面への配慮を理解し、柔道指導に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。礼法や柔道の成り立ちといった文化的背景を学びながら、段階的な技術習得を進め、実践的な指導力を養う。さらに、柔道試合の審判法を含む総合的な学びを通じて、柔道を安全かつ効果的に指導・実践できる力を培う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(剣道)		本授業では、剣道の基本動作および対人的技能の習得を通じて、剣道の所作に表れる精神性や相互尊重の精神を理解し、それを実践できる力を養う。武士道に基づく剣道の歴史的背景を学び、基本的な技術から対人技術への発展を目指しながら、学校指導現場でも活用可能な練習法を身につける。グループ学習を取り入れ、技術確認を行う過程で対人調整力やコミュニケーション能力も向上させ、剣道指導に必要な総合的な力を培う。	
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(サッカー)		サッカーの足でボールを操作するという特性を理解し、中・高等学校体育での授業展開に必要な理論や指導方法について、実技やデータおよびICT機器を活用した演習の実践的体験を通して学ぶ。具体的には以下の6点を中心に取り組む。①サッカーの楽しさや難しさといった特性理解 ②サッカーへの多様な関わり(する・観る・支える) ③教師と生徒による授業や試合の運営方法 ④各種個人技能の特性理解と習得 ⑤プレーの原理・原則の理解 ⑥ゲームの構成要素の変化とプレーの変化の関係性への理解	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	体育実技総合(テニス)	体育実技総合(テニス)では、スキルや身体能力の向上を目指すだけでなく、ルール、審判法、チームワーク等、生涯スポーツ実践の素養を修得する。更に、視覚教材による、技術及びゲーム分析、フットワーク等トレーニング法、など必要不可欠なスポーツ科学理論の理解を深める。基礎体力の向上及び健康の維持増進を図ると共に、心身の変化について理解を深める。基本的な技術を反復練習を繰り返し、各自がフィードバックを行い、修正能力を養う。その後相手とのライブボールで調整力、予測力の練習を行う。後半は戦術、ポジショニング、リカバリーなどでゲーム性を伴った練習を行なう。最後はシングルス及びダブルスのゲームを行い、必要な技術、戦術の検証等を行う。基礎体力向上及び健康増進に励むことができる。生涯にわたりテニスの技術、戦術及びゲーム性の実践力とコミュニケーション能力を身につける。
専門科目	選択必修B	健康スポーツ科学科目	資格取得に必要な実技	トレーニング実習	本授業は、2年次(4 Semester)に開講された「トレーニング理論」で学んだ基礎知識を応用し、競技パフォーマンスの向上や健康増進を目的とした体力トレーニングを実施する実習科目である。レジスタンストレーニングを中心に、持続的トレーニング、プライオメトリックトレーニング、アジリティトレーニングなどを行う。レジスタンストレーニングでは、基本的なフリーウェイト種目を中心に、自重やマシンを活用した多様な種目を実施する。持続的トレーニングでは、ウォーキング、自転車エルゴメータ、ランニングを取り入れ、心拍数を測定しながら運動強度を管理する。後半では、受講者自身がトレーニング計画を立案し、トレーニング内容や成果を評価・検証しながら実施する。これらを通じて、科学的知見に基づき、対象者の体力や目的に応じたトレーニングプログラムを設計・実行できる実践的な能力を身につけることを目指す。
全学共通科目	選択必修科目	Freshman English I		「Freshman English I」は実践的なコミュニケーションやプロジェクトベース学習の要素を取り入れた授業内容を介して、英語運用能力の向上を目指す大学レベルのクラスである。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの主要言語スキルに重点を置き、特に会話力や会話スキル、質問の形成、意見やアイデアを明確に表現できる練習も随時行う。様々なインタラクティブなアクティビティ、プロジェクトやプレゼンテーションなどを通して、英語に対する自信をつけ、実社会の多様な状況に合わせて対応できる英語コミュニケーション能力を高める事を目的とする。	
全学共通科目	選択必修科目	Freshman English II		当科目は「Freshman English I」につづくクラスである。前期で築いた英語基礎力をさらに発展させ、実践的なコミュニケーション活動やプロジェクトベースの学習体験を通して、学生の英語運用能力を向上させる。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの基本的な言語スキルを活用しながら、秋学期では英語での自己表現、会話とディスカッションのスキル、リスニングとノートの取り方に重点を置いた授業内容となる。また共同プロジェクト、学生らの関心が高いトピックに基づいたディスカッション、個人またはグループでのプレゼンテーションなどを通して、実社会やアカデミックな場での英語コミュニケーションに必要な自信と流暢さを身につける事を目指す。	
全学共通科目	選択必修科目	生物学 I		生物学では、生命体の諸現象(生命現象・遺伝・進化・形態・行動・生態など)を自然科学の手法で分析し、そこから生命体に関する基本的な原理や法則を理解することを目的とする。また、進歩の著しい遺伝子工学の基礎知識として、1. 遺伝現象と遺伝子という発想、2. DNAの構造、3. 発生・行動・進化と遺伝子、4. 遺伝子の利用、について学び、遺伝子に関わる今日の社会的課題にある程度の判断が下せるようになることを目指す。「生物学 I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。	
全学共通科目	選択必修科目	生物学 II		生物学では、生命体の諸現象(生命現象・遺伝・進化・形態・行動・生態など)を自然科学の手法で分析し、そこから生命体に関する基本的な原理や法則を理解することを目的とする。また、進歩の著しい遺伝子工学の基礎知識として、1. 遺伝現象と遺伝子という発想、2. DNAの構造、3. 発生・行動・進化と遺伝子、4. 遺伝子の利用、について学び、遺伝子に関わる今日の社会的課題にある程度の判断が下せるようになることを目指す。「生物学 II」では「生物学 I」で扱わなかった領域について講義する。	
全学共通科目	選択必修科目	東南アジア研究 I		東南アジアは近年目覚ましい経済発展を遂げ、かつASEANに象徴される地域的統合を進めている。本講義はこうした東南アジアの包括的な理解を目的とする。「東南アジア研究 I」では、地域の歴史的背景と地理的特質、第二次世界大戦後の歩み、ASEANの結成と進展を取り上げ、また、東南アジア経済を事実上動かしている華僑・華人の役割と中国及び東南アジア各国の華僑政策を検討し、かつ考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択必修科目	東南アジア研究Ⅱ	東南アジアは近年目覚ましい経済発展を遂げ、かつASEANに象徴される地域的統合を進めている。本講義はこうした東南アジアの包括的な理解を目的とする。「東南アジア研究Ⅱ」では、現代の東南アジアを理解するために、東南アジアの特徴について説明をした上で、主要国の政治と経済を中心に現状と課題を考察する。また、日本と東南アジアとの関係、とりわけ日本の政府開発援助（ODA）が東南アジアの開発・発展に与えた影響を検討し、かつ考えていく。	
全学共通科目	選択必修科目	アジアの伝統文化	アジアでは国境ができる前から人々は陸をつたい、海を渡って移動し、それにともなってきたさまざまな芸能、音楽、文化が広まってきた。そのため、それらの様式には類似性や共通点が多く、その一方でその地域の風土によって生み出されたユニークで、強烈な個性を現すような独自の芸能や音楽も存在している。これらの表現を通してさまざまな社会的・精神的要素を知ることは、その土地やそこに住む人々をより深く理解し、その文化に親しむための重要な一歩となる。特にアジアの音楽を中心に文化の特質と相互関係を解説する。	
全学共通科目	選択必修科目	環境科学	科学技術の進展に伴い経済を發展させ物質的に豊かな社会を築くことが人類の生存条件をよくすると信じられてきたが、予想に反して人類の生活の場が人類の生存に敵対的になってきている。この現象が環境問題であり、現代社会の最重要な課題の一つとなっている。「環境科学」は自然環境に関する成り立ちや環境問題の発生メカニズムを科学的に理解すると共に各自が得た知識を生かしながら総合的に把握する。現状認識を踏まえて環境保全の実体を分析して環境保全のあるべき姿を模索する。	
全学共通科目	選択必修科目	ジェンダー研究への招待	「ジェンダー」の概念が登場して、すでに50年以上が経過した。国際社会は共通目標の1つとしてジェンダー平等を掲げている。ジェンダーに関する問題や論点について理解を深め、それに基づいて行動できるようになることは、誰にとっても喫緊の課題である。 この科目では、人文/社会科学のさまざまな分野におけるジェンダー研究の基礎知識を講義し、ジェンダーの観点から社会へとアプローチする方法を学ぶ。	
全学共通科目	選択必修科目	ヨーロッパの芸術と文化Ⅰ	ヨーロッパの芸術と文化は現代を生きる我々の考え方と感じ方に大きな影響を与えている。これを学ぶことは我々が生きる世界と我々自身を知るために必要であり、また、我々の知性と感性を高めることにも貢献してくれるはずである。さらに、ヨーロッパの文化理解を根底に置いたヨーロッパ芸術の受容は、受講者各自にとって純粋な愉しみ、人生における持続的な感動の源泉ともなりうるものである。本科目は、その可能性を見出す、あるいは広げるための端緒となるであろう。	
全学共通科目	選択必修科目	ヨーロッパの芸術と文化Ⅱ	「ヨーロッパの芸術と文化Ⅰ」を發展させ、受講者がヨーロッパの芸術を自発的に享受することができるようにする。「ヨーロッパの芸術と文化Ⅱ」で学んだ、ヨーロッパの文化的背景の理解をもとに、受講者自身が芸術作品を（自己流ではなく）的確に味わい、芸術を通した美的体験・思想的体験を深化させる。この科目を通じ、芸術鑑賞が本来の意味での生涯学習であり、芸術との関わりを持つことは人生をより愉しく、そして豊かにしてくれることを実感できるようにする。	
全学共通科目	選択必修科目	国際関係論Ⅰ	国際関係論は国際社会の現象を対象として、紛争・戦争の歴史や構造を解明し、協力による平和の追求を目的とする学問である。人間の営みには連続性があり、歴史を知らずして、現在や未来の国際関係を語ることはできない。「国際関係論Ⅰ」は、国際関係を動かし、その歴史を形成する原理・メカニズムを中心に国際関係の動きを見ていく。とりわけ、グローバル化の展開の中で、国際関係がどのように変動してきたかを解明していく。	
全学共通科目	選択必修科目	国際関係論Ⅱ	国際関係論は国際社会の現象を対象として、紛争・戦争の歴史や構造を解明し、協力による平和の追求を目的とする学問である。国際社会は、現在大きな変動期を迎えており、従来の国際関係諸現象を理解するための基本概念にもその変化が多く見られる。「国際関係論Ⅱ」は国民国家システム、国家安全保障、国際的相互依存という三つの側面における変容を考察し、諸概念の再検討を行うことによって、国際関係に対立する理解力や分析力を養う。異なった民族、異質な文化・価値観との対立を乗り越え、共生の道を模索し、平和の研究を深めていく。	
全学共通科目	選択科目	大学英語基礎Ⅰ	本科目では、1年次春学期に並行して履修する「Freshman EnglishⅠ」において育成する実践的な英語運用力に欠かせない英語基礎知識と言語理解に係る各種技能を学ぶ。入学時のプレイメントテストの結果に基づき、習熟度に応じた語彙や文法等の基礎知識習得のためにさまざまな言語理解活動を行う。そのことにより、英語運用力の基礎を構築する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	大学英語基礎Ⅱ		1 年次春学期開講の「大学英語基礎Ⅰ」を踏まえた上で、本科目では、1 年次秋学期に並行して履修する「Freshman EnglishⅡ」において育成する実践的な英語運用力に欠かせないさらなる英語基礎知識と言語理解に係る各種技能を学ぶ。習熟度に応じたより高度な語彙や文法等の知識習得のためにさまざまな言語理解活動を行う。そのことより、1 年次春学期終了時点よりも一段高度な英語運用力の基礎を構築する。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	中国語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	中国語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	中国語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	中国語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ドイツ語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	フランス語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	フランス語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	フランス語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	フランス語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
全学共通科目	選択科目	インドネシア語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
全学共通科目	選択科目	インドネシア語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
全学共通科目	選択科目	インドネシア語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
全学共通科目	選択科目	インドネシア語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
全学共通科目	選択科目	韓国語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
全学共通科目	選択科目	韓国語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	韓国語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	韓国語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかりと学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	タイ語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	タイ語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	タイ語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	タイ語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ベトナム語初級Ⅰ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅰ（前期）では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ベトナム語初級Ⅱ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級（読本）のクラスである。Ⅱ（後期）では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。	
全学共通科目	選択科目	ベトナム語初級Ⅲ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	ベトナム語初級Ⅳ		初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語中級Ⅰ		外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	アラビア語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	アラビア語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	中国語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	中国語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	中国語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	中国語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ドイツ語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	ドイツ語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	フランス語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	フランス語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	フランス語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	フランス語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ヒンディー語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	インドネシア語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	インドネシア語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	インドネシア語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	インドネシア語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	韓国語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	韓国語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	韓国語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	韓国語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	モンゴル語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	モンゴル語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	ポルトガル語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ロシア語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	ロシア語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語中級Ⅲ	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	スペイン語中級Ⅳ	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。	
全学共通科目	選択科目	タイ語中級Ⅰ	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。	
全学共通科目	選択科目	タイ語中級Ⅱ	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	タイ語中級Ⅲ		外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
全学共通科目	選択科目	タイ語中級Ⅳ		読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
全学共通科目	選択科目	ベトナム語中級Ⅰ		外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
全学共通科目	選択科目	ベトナム語中級Ⅱ		外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わるまで読みきくことは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
全学共通科目	選択科目	ベトナム語中級Ⅲ		外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
全学共通科目	選択科目	ベトナム語中級Ⅳ		読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系的な理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
全学共通科目	選択科目	English Communication I		さまざまな文献、聴覚・視覚教材、コンピューター教材を用いて、英語を聞き取る能力、英語を話す能力を総合的に向上させるためのクラスである。自分の考えや意見を英語で表現する技術を身に付けるためには、積極的に参加することが重要である。多様な形で英語を学習することはAUAPに参加する学生にとっても有益である。
全学共通科目	選択科目	English Communication II		「English Communication I」と同じように、総合的な英語力の向上を目指す。さまざまなテーマを取り上げ、その内容について「英語で」読み、聴き、書き、話すことによって、英語使用に慣れるようにする。AUAPに参加する学生にとっても役に立つと考えられる。
全学共通科目	選択科目	English Communication III		この授業では異文化間の問題、サバイバルのための会話、アメリカの大学での学習に必要な英語に重点をおいて指導する。英文作法やプレゼンテーション、またディスカッションの技術なども含めて学ぶ。これらは特にAUAPに参加する学生にとっては準備として必要なスタディ・スキルである。

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目 English CommunicationIV		ある程度のレベルで英語が使用できる学生を対象とするクラスである。その能力の維持と、更に向上させることを目的とする。ディスカッションやライティングなども含まれ、多少高度なレベルで、英語のコミュニケーションが図れるようにする。	
全学共通科目	選択科目 English Communication V		留学などで、ある程度英語使用の経験があり、英語でのコミュニケーションが可能な学生を対象とする。それを更に向上させるために、日常会話のレベルではなく、学術的な場面や職場で必要な英語などを学ぶ。AUAPに参加した学生にも適したクラスである。	
全学共通科目	選択科目 English CommunicationVI		「English CommunicationV」に続いて英語能力の維持を図り、より高度で実践的な英語使用の場面を通して、更にその能力を高めることを目的とするクラスである。AUAPに参加した学生にも適したクラスである。	
全学共通科目	選択科目 English CommunicationVII		上級レベルの受講者を対象として、多様な場面での英語使用を想定し、難度の高い教材を使用し応用力の養成を目指す。オーラル・コミュニケーションを重視する傾向がますます強くなっている現状を踏まえ、実践的な英語使用について学ぶ。	
全学共通科目	選択科目 English CommunicationVIII		「English CommunicationVII」と同じように、上級レベルのクラスである。言語機能を中心に英語使用に関して分析能力も養えるように段階的に学ぶ。それによってコミュニケーションの構造・機能を理解し、指導の際にも有益な知識を身に付ける。具体的な場面を想定し、それぞれの状況に応じた構文を基礎から応用という段階を踏まえて学び、洗練された表現が使用できることを目指す。	
全学共通科目	選択科目 中国語コミュニケーション I		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。I（前期）では、主に基礎的な会話能力を養うために、ネイティブ・スピーカーのもとで日常よく使われる表現や簡単な言い回しを学んでいく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目 中国語コミュニケーション II		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。II（後期）も、Iと同様にコミュニケーション・ツールとして外国語を使用するような場が与えられ、その訓練をネイティブと一緒にやっていく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目 中国語コミュニケーション III		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。III（前期）では、会話能力の向上を図ることはもちろんだが、特に外国語で討論する技術を学び、発表する訓練を行っていく。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	
全学共通科目	選択科目 中国語コミュニケーション IV		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。IV（後期）では、受講生はネイティブのもとで普通の授業と同じように積極的に外国語で意見を述べ、議論していくことになる。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	ドイツ語コミュニケーションⅠ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅰ（前期）では、主に基礎的な会話能力を養うために、ネイティブ・スピーカーのもとで日常よく使われる表現や簡単な言い回しを学んでいく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語コミュニケーションⅡ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅱ（後期）も、Ⅰと同様にコミュニケーション・ツールとして外国語を使用するような場が与えられ、その訓練をネイティブと一緒にやっていく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語コミュニケーションⅢ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅲ（前期）では、会話能力の向上を図ることはもちろんだが、特に外国語で討論する技術を学び、発表する訓練を行っていく。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語コミュニケーションⅣ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅳ（後期）では、受講生はネイティブのもとで普通の授業と同じように積極的に外国語で意見を述べ、議論していくことになる。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語コミュニケーションⅠ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅰ（前期）では、主に基礎的な会話能力を養うために、ネイティブ・スピーカーのもとで日常よく使われる表現や簡単な言い回しを学んでいく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語コミュニケーションⅡ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅱ（後期）も、Ⅰと同様にコミュニケーション・ツールとして外国語を使用するような場が与えられ、その訓練をネイティブと一緒にやっていく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語コミュニケーションⅢ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅲ（前期）では、会話能力の向上を図ることはもちろんだが、特に外国語で討論する技術を学び、発表する訓練を行っていく。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語コミュニケーションⅣ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅳ（後期）では、受講生はネイティブのもとで普通の授業と同じように積極的に外国語で意見を述べ、議論していくことになる。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語コミュニケーションⅠ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅰ（前期）では、主に基礎的な会話能力を養うために、ネイティブ・スピーカーのもとで日常よく使われる表現や簡単な言い回しを学んでいく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	韓国語コミュニケーションⅡ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅱ（後期）も、Ⅰと同様にコミュニケーション・ツールとして外国語を使えるような場が与えられ、その訓練をネイティブと一緒にやっていく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	韓国語コミュニケーションⅢ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅲ（前期）では、会話能力の向上を図ることはもちろんだが、特に外国語で討論する技術を学び、発表する訓練を行っていく。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語コミュニケーションⅣ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅳ（後期）では、受講生はネイティブのもとで普通の授業と同じように積極的に外国語で意見を述べ、議論していくことになる。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語コミュニケーションⅠ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅰ（前期）では、主に基礎的な会話能力を養うために、ネイティブ・スピーカーのもとで日常よく使われる表現や簡単な言い回しを学んでいく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語コミュニケーションⅡ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していく実践科目の一つが、初級の外国語コミュニケーションである。Ⅱ（後期）も、Ⅰと同様にコミュニケーション・ツールとして外国語を使えるような場が与えられ、その訓練をネイティブと一緒にやっていく。授業の仕方は、言語や教員によって様々だが、受講生はここで生きた言葉の使い方を学んでいく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語コミュニケーションⅢ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅲ（前期）では、会話能力の向上を図ることはもちろんだが、特に外国語で討論する技術を学び、発表する訓練を行っていく。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語コミュニケーションⅣ		コミュニケーション・ツールとしての外国語能力を養成していくもう一つの実践科目が、中級の外国語コミュニケーションである。Ⅳ（後期）では、受講生はネイティブのもとで普通の授業と同じように積極的に外国語で意見を述べ、議論していくことになる。授業の進め方は、言語や担当者によって異なるが、受講生がコミュニケーション・ツールとして外国語をスムーズに運用できるよう学習していく。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	American Issues		アメリカの歴史、政治、文化、地理更にビジネスなどについて、文献、地図、講義、録音、ビデオなどを用いて総合的に学ぶ。特にアメリカの南北戦争開始後から現代までを中心に取り上げる。	
全学共通科目	選択科目	Global Studies		ユネスコのホームページ(UNESCO World Heritage Sites)の中から興味深いものを選び、世界の文化及び環境についてまず考えるきっかけとする。そして現代の多様な問題を考察していく。内容としては民族紛争、国境問題、環境の荒廃、社会問題、先進国の高齢化問題、長期的紛争、世界的な疾病、経済・政治問題そして将来の方向性についてなどを取り上げる。語彙力の向上も図ることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	アジアを知る章		アジアには民主主義国家、社会主義国家、家産制国家、都市国家まで、大小様々で多様なタイプの国々から成っている。それだけでなく歴史や文化も、民族も宗教も実に多様な国家群により構成されている。このような多様で、可能性に満ちたアジアの魅力を学び、アジアへの関心をより一層深めてもらうのが本講義の目的である。ここではアジアの各国や諸問題を理解する上で最も重要と思われるテーマを取り上げて、1回ごと完結の形で授業を進める。	
全学共通科目	選択科目	西洋史Ⅰ		歴史は単なる史実の連続ではない。史実が歴史家によって分析され、解釈され、叙述されることによって、初めて歴史は成り立つ。この講義では、ヨーロッパ・アメリカの歴史について、「西洋」の持つ象徴的な意味も考えながら、最新の研究成果を参照しつつ学ぶ。社会科学諸分野に取り組む上での知見を養い、深めることがその目的である。「西洋史Ⅰ」は、古代から近代初期を主な対象として論じる。	
全学共通科目	選択科目	西洋史Ⅱ		歴史は単なる史実の連続ではない。史実が歴史家によって分析され、解釈され、叙述されることによって、初めて歴史は成り立つ。この講義では、ヨーロッパ・アメリカの歴史について、「西洋」の持つ象徴的な意味も考えながら、最新の研究成果を参照しつつ学ぶ。社会科学諸分野に取り組む上での知見を養い、深めることがその目的である。「西洋史Ⅱ」は、主に近現代を対象として論じる。	
全学共通科目	選択科目	東洋史Ⅰ		本講義は中国を中心とする東アジア世界とその他のアジア諸地域の形成・展開の過程について理解を深め、その文化の独自性と多様性を考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる一員として必要な自覚と資質を養うことを目的とする。「東洋史Ⅰ」は、アジアにおける古代文明の誕生から近代以前までの政治・経済・社会・文化などを考察し、多様性に富むアジア諸地域の歴史を多面的に理解することを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	東洋史Ⅱ		本講義は中国を中心とする東アジア世界とその他のアジア諸地域の形成・展開の過程について理解を深め、その文化の独自性と多様性を考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる一員として必要な自覚と資質を養うことを目的とする。「東洋史Ⅱ」は、近現代におけるアジア諸地域の政治・経済・社会・文化などを考察し、グローバルな歴史展開の中でアジア諸地域がいかに変容し、現代の国際社会を形成するに至ったかを、多面的に理解することを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	日本史Ⅰ		戦争体験者が希少となり、平和が自明のことと思われがちな今日、戦争について語り、研究することも、とかく忌避されがちである。しかし、わが国の過去の行為をどう評価するにせよ、戦争の原因とその経過、更には当時の社会情勢を知らずしては何も語ることができないはずである。日本史Ⅰでは、帝国主義時代と日本の開国、日清・日露戦争を振り返り、今日の日本を知るための手がかりとする。「すべての歴史は現代史である」(B.クローチェ)ことを踏まえて近・現代史を考察する。	
全学共通科目	選択科目	日本史Ⅱ		戦争体験者が希少となり、平和が自明のことと思われがちな今日、戦争について語り、研究することも、とかく忌避されがちである。しかし、わが国の過去の行為をどう評価するにせよ、戦争の原因とその経過、更には当時の社会情勢を知らずしては何も語ることができないはずである。日本史Ⅱでは、改めて昭和の戦争を考え、現代日本を理解する手がかりとしたい。「すべての歴史は現代史である」(B.クローチェ)ことを踏まえて近・現代史を考察する。	
全学共通科目	選択科目	中国語応用Ⅰ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ(前期)では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	中国語応用Ⅱ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ(後期)では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	中国語応用Ⅲ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	中国語応用Ⅳ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語応用Ⅰ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ（前期）では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語応用Ⅱ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語応用Ⅲ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ドイツ語応用Ⅳ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語応用Ⅰ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ（前期）では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語応用Ⅱ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	フランス語応用Ⅲ		一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
全学共通科目	選択科目	フランス語応用Ⅳ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語応用Ⅰ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ（前期）では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語応用Ⅱ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語応用Ⅲ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	韓国語応用Ⅳ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ロシア語応用Ⅰ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ（前期）では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ロシア語応用Ⅱ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ロシア語応用Ⅲ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	ロシア語応用Ⅳ		一年次ないし二次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	スペイン語応用Ⅰ	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅰ（前期）では、新聞や雑誌などの教材を読むことで語学力を養い、併せて人間や文化についても学んでいく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語応用Ⅱ	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語応用Ⅲ	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ（前期）では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	スペイン語応用Ⅳ	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ（後期）も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	教養基礎(歴史からみた異文化交流)	この科目は、一般教育・語学・体育など主として教養教育を担当する教員が、ゼミ形式で行う少人数授業の科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについての通常の講義科目とは一味違う、非常に幅広く多様で教員とより密着した授業が期待できる。	
全学共通科目	選択科目	Doing History I	“History” is not just a sequence of historical facts, but the product of historians’ various interpretations and perspectives. This course is designed more for “doing” history by reconsidering historiography from critical viewpoints through active discussions rather than just “learning” history. Learning through key debates, we discuss various historical topics in the course -Doing History I mainly focuses on historiography from ancient to early modern times. 「歴史」とは、単なる歴史的事実の羅列ではなく、歴史家の様々な解釈や視点の産物である。このコースでは、歴史を「学ぶ」というよりも、歴史学を批判的な視点からとらえ直し、活発な議論を通じて歴史を「学ぶ」ことを目的としている。歴史学Ⅰでは、主に古代から近世にかけての歴史学について学ぶ。	隔年開講
全学共通科目	選択科目	Doing History II	“History” is not just a sequence of historical facts, but the product of historians’ various interpretations and perspectives. This course is designed more for “doing” history by reconsidering historiography from critical viewpoints through active discussions rather than just “learning” history. Learning through key debates, we discuss various historical topics in the course-Doing History II mainly focuses on historiography from modern to contemporary times. 「歴史」とは、単なる歴史的事実の羅列ではなく、歴史家の様々な解釈や視点の産物である。このコースは、歴史を「学ぶ」というよりも、歴史学を批判的な視点から捉え直し、活	
全学共通科目	選択科目	北東アジア研究Ⅰ	北東アジアといっても広い。本講座では、モンゴルと南北朝鮮を取り上げる。中国の周辺国という点で共通しているが、その文化、政治、経済、歴史、中国との関わりは驚くほど違う。それぞれの国の特色を紹介し、各国についての基本的理解を図ると共に、モンゴルについてはその歴史と新たな国づくりの問題、南北朝鮮については政治、経済動向等、最近の動きも紹介したい。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	北東アジア研究Ⅱ		「北東アジア研究Ⅱ」では、Ⅰに引き続き、モンゴルと南北朝鮮を取り上げ、より深く、また視点を変えて論じる。それぞれの国の特色を紹介し、各国についての基本的理解を図ると共に、モンゴルについてはその歴史と新たな国づくりの問題、南北朝鮮については政治、経済動向等、最近の動きも紹介したい。
全学共通科目	選択科目	中国研究Ⅰ		「中国研究」は、中国に関心を抱き、中国をもっと知りたい学生を対象とする案内コースである。「中国研究Ⅰ」では、現在中国が直面している国内問題や新たに登場した現象を取り上げ、中国の政治・経済・社会構造について学ぶ。その際に、各問題の現状を知るだけでなく、その歴史的な背景についても考える。現代中国に関する基礎知識や観点を習得することを通じて、中国理解を深める。
全学共通科目	選択科目	中国研究Ⅱ		「中国研究」は、中国に関心を抱き、中国をもっと知りたい学生を対象とする案内コースである。現在の中国を理解するには、中国の現代史を知ることが必要となる。なぜなら現在の中国は国際環境や国内情勢の変化に対して講じられたさまざまな試行錯誤の結果、歴史的に形成されたと考えられるからである。「中国研究Ⅱ」では、1945年以降の政治・外交を中心に、中国の歴史的な歩みを学ぶ。
全学共通科目	選択科目	西洋文学Ⅰ		西洋文学について歴史的背景を視野に入れて概観し、散文芸術の発生からその発展過程をたどり、20世紀につながる流れを代表的な作品を通して論述する。特にギリシア、イギリス、フランス、ドイツ等の代表的文学作品を通して、作品の鑑賞とその時代背景、作家の思想、及び人間洞察、神話・伝説との関連、作品の芸術性等を考察する。歴史的な経緯、例えばギリシア悲劇からシェイクスピア劇へと続く演劇の歴史や、地域的な特徴、例えばフランス文学に一貫している「モラリスト文学」と「心理小説」に着目しながら作家の感覚や心理、そして人間描写の巧みさ等の理解を図る。「西洋文学Ⅰ」では、上記の内容からいくつかを取り上げて講義する。
全学共通科目	選択科目	西洋文学Ⅱ		西洋文学について歴史的背景を視野に入れて概観し、散文芸術の発生からその発展過程をたどり、20世紀につながる流れを代表的な作品を通して論述する。特にギリシア、イギリス、フランス、ドイツ等の代表的文学作品を通して、作品の鑑賞とその時代背景、作家の思想、及び人間洞察、神話・伝説との関連、作品の芸術性等を考察する。歴史的な経緯、例えばギリシア悲劇からシェイクスピア劇へと続く演劇の歴史や、地域的な特徴、例えばフランス文学に一貫している「モラリスト文学」と「心理小説」に着目しながら作家の感覚や心理、そして人間描写の巧みさ等の理解を図る。「西洋文学Ⅱ」では、「西洋文学Ⅰ」で扱ったものとは異なる時代、異なる地域について講義する。
全学共通科目	選択科目	中国文学Ⅰ		3000年近い歴史のある中国文学は、近代に至るまで外国からの影響をほとんど受けずに独自の発展を遂げてきた。まず文学の担い手が政治家(政治家志望者も含む)とその周縁に位置する人間にほぼ限定されており、また一言で「詩」や「小説」と言っても、そこには他国の文学には見られない特徴が存在する。「中国文学Ⅰ」ではそうした中国文学の特異性を踏まえつつその発展の歴史を概観し、著名な文学者とその代表作を鑑賞することで中国文学についての理解を深めるものとする。
全学共通科目	選択科目	中国文学Ⅱ		3000年近い歴史のある中国文学は、近代に至るまで外国からの影響をほとんど受けずに独自の発展を遂げてきた。まず文学の担い手が政治家(政治家志望者も含む)とその周縁に位置する人間にほぼ限定されており、また一言で「詩」や「小説」と言っても、そこには他国の文学には見られない特徴が存在する。「中国文学Ⅱ」では「中国文学Ⅰ」から対象を変えて、中国文学の特異性を踏まえつつその発展の歴史を概観し、著名な文学者とその代表作を鑑賞することで中国文学についての理解を深めるものとする。
全学共通科目	選択科目	創造の世界Ⅰ(ことばとイマジネーション)		想像する力。想像したものを具体的な形にするための手段・方法。必要に応じて他者との協力関係を作り上げる組織力。そして、その過程に間違いなく生じる試行錯誤への覚悟と乗り越えるバイタリティ。創造とはこれらの総合であることを理解することを目的とする。そのために、「創造の世界Ⅰ」は「ことば」による創作について現代日本文化の創造の最前線に位置すると思われる作品や人物を取りあげ、その具体的な紹介と分析を行う。
全学共通科目	選択科目	創造の世界Ⅱ(アニメーションの世界)		想像する力。想像したものを具体的な形にするための手段・方法。必要に応じて他者との協力関係を作り上げる組織力。そして、その過程に間違いなく生じる試行錯誤への覚悟と乗り越えるバイタリティ。創造とはこれらの総合であることを理解することを目的とする。そのために、「創造の世界Ⅱ」は「映像」「舞台」などで、現代日本文化の創造の最前線に位置すると思われる作品や人物を取り上げ、創造過程の具体的な紹介と分析を行う。

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	日本の表象文化		本科目では、主に近代以降に生み出された日本語による「書きことば」(エクリチュール)とその文化表象について、具体的なテキストに即しつつ考察する。ここには当然文学作品は含まれるが、美術や写真、音楽、放送、広告のコピーや社会的・政治的標語などのような、これまで文学には分類されてこなかった表現の数々もとり上げていく。近現代の日本において、人々の知性や心性、感覚や価値観、ふるまいや行動などを形づくり、またこれらに多角的に作用していったさまざまな文化表象を読み解くことを、授業の目的とする。	
全学共通科目	選択科目	日本文学(中古)		近代以前の日本文学、すなわち日本の古典文学について、社会人として必要十分な教養や知識を授ける科目である。日本文学史(古典)は上代・中古・中世・近世と時代区分されるが、ここではおもに中古(平安時代=およそ9-12世紀)の作品を対象とする。中古文学は、かな(平仮名)による表現、和歌の隆盛、物語文学の多作によって特徴づけられる。これらのなかから著名な古典作品を作り上げ、読解するとともに、同時代の思想や文化、風俗についての理解と考察を深める、単に文章の通釈をおこなうのみならず、そこに内包される歴史性や現代性をも読み解く講義になる。	
全学共通科目	選択科目	日本文学(中世)		近代以前の日本文学、すなわち日本の古典文学について、社会人として必要十分な教養や知識を授ける科目である。日本文学史(古典)は上代・中古・中世・近世と時代区分されるが、ここではおもに中世(鎌倉時代=およそ13-14世紀、室町時代=およそ15-16世紀)の作品を対象とする。中世文学は、前代にひき続き韻文(和歌・連歌)と散文(物語)を二本柱としながら、古典研究や芸能の方面にも展開を示した。これらのなかから著名な古典作品を取り上げ、読解するとともに、同時代の思想や文化、風俗についての理解と考察を深める、単に文章の通釈をおこなうのみならず、そこに内包される歴史性や現代性をも読み解く講義になる。	
全学共通科目	選択科目	日本文学(近世)		近代以前の日本文学、すなわち日本の古典文学について、社会人として必要十分な教養や知識を授ける科目である。日本文学史(古典)は上代・中古・中世・近世と時代区分されるが、ここではおもに近世(江戸時代=およそ17-19世紀)の作品を対象とする。近世文学は、都市の発達と本格的な出版の開始を背景として、同時代の韻文や散文、演劇はもちろん、国学や舌耕(落語等)の分野も開拓し、集積した古典の各ジャンルをも受け継ぎ、多彩な様相を示した。これらのなかから著名な古典作品を取り上げ、読解するとともに、同時代の思想や文化、風俗についての理解と考察を深める、単に文章の通釈をおこなうのみならず、そこに内包される歴史性や現代性をも読み解く講義になる。	
全学共通科目	選択科目	日本文学(近現代)		日本は中国大陸・朝鮮半島をはじめとする他国との文化接触によって、自国の文化を多様で豊かなものとして育て上げてきた。明治維新以降は、これに欧米諸国との関係が加わり、近代化のなかで日本文化は複雑な色合いをもつに至る。特に20世紀以降、文学という文化表象は、近代化のもつて格闘する人々の心性や知性の表現の器として形成され、新聞・雑誌・書物などの媒体を通して読者に提供されてきた。「日本文学(近現代)」は、主に明治期以降の近代から現代に至る文学を、上記の観点から分析し、21世紀を生き抜くヒントを得ることを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	文章作成技法		インターネットが普及し、誰もが容易に情報を手に入れられる時代になった。だが、日々更新され増殖する膨大な情報量を前にして、われわれ現代人は、時にその取り扱いに窮し、なす術なく立ち止まることすらある。「文章作成技法」は、そのような情報洪水(Information Pollution)の時代において、受講者である学生たちがどのようにして情報を収集し、それら情報の適否を判断したら良いか、また、各情報の有用性・有益性をどのようにして分析すべきかを学び、それら一連の学修成果としての発展的レポートを作成する科目である。文章作成の基礎を踏まえた上で、より発展・応用的な文章技法の能力を備えることはもちろん、卒業後に参加する社会や組織、ビジネスの現場において、主体的な思考力・企画力・創造力を備えた社会人となるための地力を養う科目として位置付けられる。	
全学共通科目	選択科目	表現とメディア I		表現が社会や文化を形づくりにあたって果たしている役割は、思いのほか大きい。それはその社会や文化の中で生きる人々の思考や感覚・欲望まで作り出している場合があり、現代に生きる私たちにとって、見逃せない問題である。「表現とメディア I」では、主に言語による表現を中心に取り上げるが、歴史や社会と表現を別々に捉えるのではなく、それらの関係のあり方や、そこから生み出されてくるものを複合的に問題にしていく。個々の表現が相異なる時代状況とさまざまな関わり合いながら示す多彩なはたらきを捉え、それらを多角的に考察することが、この科目の目的である。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	表現とメディアⅡ		表現が社会や文化を形づくりにあたって果たしている役割は、思いのほか大きい。それはその社会や文化の中で生きる人々の思考や感覚・欲望まで作り出している場合があり、現代に生きる私たちにとって、見逃せない問題である。「表現とメディアⅡ」では、言語による表現に加え、画像・映像表現もより積極的に取り上げる。その場合でも、表現・メディア状況・歴史・社会を別々に捉えるのではなく、それらの関係のあり方と、そこから生み出されてくるものを複合的に問題にする。個々の表現が異なる時代状況とさまざまな関わり合いながら示す多彩なはたらきを捉え、それらを多角的に考察することが、この科目の目的である。	
全学共通科目	選択科目	日本の伝統芸能		国際社会で自己の立場を確立するにあたり、基盤となるのは自身のよって立つ文化への広範な理解である。この観点から、本科目では日本の伝統芸能について学ぶ。伝統芸能は広くは絵画、工芸、茶道、華道などの芸道や民俗芸能なども含み、狭義には能・狂言、人形浄瑠璃・歌舞伎などの舞台芸術を指す。日本の伝統芸能の素養を身につけることにより、多様な文化に直面しても翻弄されることなく自立性を保ち、グローバル化された現代社会を生き抜くための一助としてほしい。	
全学共通科目	選択科目	日本の美術		日本の美術の発生は、先史古墳時代の土器に認められる。続く奈良時代は中国文化の受容で知られ、その流入が止む平安期の王朝時代にはいわゆる国風文化が栄える。武士に政権が移った鎌倉時代には再び大陸の影響をうける。室町時代とその後の動乱を経て、江戸時代に入ると鎖国政策がとられるが、徳川幕府の安定した治世下に豊かな町民文化が開花した。そして近代に到達すると<美術>にも明治維新が起る。 しなやかにしたたかに外来文化との交流を続けた日本美術は、どのような形象を創り出してきたのだろうか。また西欧近代との直面という衝撃にさらされたとき、どのような変貌を遂げたのだろうか。この授業では、美術を通して日本の文化と創造力への理解を深める。	
全学共通科目	選択科目	韓国文化論		韓国は、日本の隣国であり、古くから各方面にわたって、日本と深い関わりをもってきた。 とりわけ今世紀に入って以降、日本における韓国文化への関心の高まりは顕著である。本科目では、韓国文化の諸相を講じ、受講者が韓国文化について理解を深めることを目的とする。なお、本科目という「韓国文化」は、朝鮮半島における伝統的な生活様式や行動様式に根ざしつつ、現在の韓国において独自の発展を遂げた文化の総体をさす。	
全学共通科目	選択科目	教養基礎(近現代日本の文化と表現)		ゼミ形式による少人数でおこなう基礎教養科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについて、通常の講義とは一味ちがうかたちで学び、論じ、考える授業が期待できる。	
全学共通科目	選択科目	教養基礎(現代文学入門)		ゼミ形式による少人数でおこなう基礎教養科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについて、通常の講義とは一味ちがうかたちで学び、論じ、考える授業が期待できる。	
全学共通科目	選択科目	教養基礎(チェスと文学)		ゼミ形式による少人数でおこなう基礎教養科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについて、通常の講義とは一味ちがうかたちで学び、論じ、考える授業が期待できる。	
全学共通科目	選択科目	教養基礎(理論で読む現代文学)		ゼミ形式による少人数でおこなう基礎教養科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについて、通常の講義とは一味ちがうかたちで学び、論じ、考える授業が期待できる。	
全学共通科目	選択科目	文章表現		現在、IT化の波により、パソコン・ワープロが普及し、その結果、ある意味で器用な文章の「書き手」が増えてきている。たしかにこれまで原稿用紙に向かって格闘していた労苦は著しく減少し、氾濫する情報を、手際良くスピーディに処理できるようになった。が、その反面、表現として生み落とされた文章は、いかにも没個性的で、責任主体の不明瞭な平板なものが増えてきていること。これもまた、もう一つの実事である。「文章表現」は、このような現代の状況を視野におさめつつ、個人的で力感あふれる文章づくりを学生に指導していく。大学生活に必要な論文の作成能力を養成するとともに、卒業後の社会における実践的かつ創造的な文章表現能力を身につけさせることを目標とする科目である。	
全学共通科目	選択科目	教養基礎(多様性とアートの教育学)		ゼミ形式による少人数でおこなう基礎教養科目である。担当教員の専門分野に関わる特定のテーマについて、通常の講義とは一味ちがうかたちで学び、論じ、考える授業が期待できる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	宗教学Ⅰ		宗教を学ぶ上で重要なことは、それが個人の幸福や国家・民族社会の安定にどのように貢献しているかを理解することである。今日、宗教が個人の精神活動や民族社会を支える理念として、きわめて重要であることを認識している人は少なくない。「宗教学Ⅰ」では世界宗教といわれる仏教、キリスト教、イスラム教の基本的教義と歴史を中心に解説する。	
全学共通科目	選択科目	宗教学Ⅱ		「宗教学Ⅱ」では、「宗教学Ⅰ」で取り上げた世界宗教といわれる仏教、キリスト教、イスラム教の基本的教義と歴史の解説を前提に、それが時代的、地域的にどのような影響を与えたか、そして、「そもそも宗教は人間にとって何なのか」という人間中心の視点も踏まえて総合的に宗教を考察することを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	経済学Ⅰ		ミクロ経済学の基礎事項について学習する。ミクロ経済学の基本的道具は需要と供給という概念であるが、それらがどう決定され、結果として様々な市場において価格がどのように決定されるかについて理解することを目的とする。また、様々な経済現象を需要と供給という道具でどのように理解できるか、更に規制がどのように市場に影響するか、についても学習する。	
全学共通科目	選択科目	経済学Ⅱ		マクロ経済学の基礎事項について学習する。主として国民所得とは何か、それはどのように決定されるのか、また利子率と国民所得はどのように関係しているかについて学習する。ビジネスを行ううえで景気動向などを知ることは必須であると思われるので、景気などのマクロ経済指標とその読み方についての基本的理解も目的としている。	
全学共通科目	選択科目	政治学Ⅰ		「政治学Ⅰ」は専門科目ではなく、政治学を初めて学習するための科目である。その学習の内容は主として、(1) 様々な社会現象の中で政治とはどのような特徴をもち、どのような役割を果たしているのかということであり、(2) 政治の主要な担い手にはどのようなものがあり、それがどのような役割を果たしているかということであり、(3) 現代政治の主要な制度や体制の特徴を理解することである。主として政治のミクロ的側面を対象とし、個人や集団の主張や政治参加という「政治過程」を対象とする。	
全学共通科目	選択科目	政治学Ⅱ		「政治学Ⅱ」は「政治学Ⅰ」と同様専門科目ではなく、政治、特に現代政治を理解するために最小限必要な知識や理論を学習することを目的とするものである。主として政治のマクロ的側面を対象とし、政治権力の側からの「統治過程」を対象とすることになる。	
全学共通科目	選択科目	地誌学Ⅰ		人間の諸活動は地域社会と密接に関わっている。地誌学は、一般地理学とは異なり、限られた地域の文化・自然の全ての要素を調べ、地域的特性を明らかにする部門である。自然分野の観点からだけでなく、我々の先人たちがどのようにして地域に適合した生活・文化を作り上げてきたのかを、人文・歴史・社会などの各方面の学問と重ね合わせながら、地域と地域に土着した生活文化について論じる。「地誌学Ⅰ」では、上記の内容からいくつかを取り上げ、解説する。	
全学共通科目	選択科目	地誌学Ⅱ		人間の諸活動は地域社会と密接に関わっている。地誌学は、一般地理学とは異なり、限られた地域の文化・自然の全ての要素を調べ、地域的特性を明らかにする部門である。自然分野の観点からだけでなく、我々の先人たちがどのようにして地域に適合した生活・文化を作り上げてきたのかを、人文・歴史・社会などの各方面の学問と重ね合わせながら、地域と地域に土着した生活文化について論じる。「地誌学Ⅱ」では、「地誌学Ⅰ」で取り上げた以外の内容について解説する。	
全学共通科目	選択科目	日本思想史Ⅰ		日本思想史は、日本思想すなわち日本の文化伝統の歴史であり、歴史的に形成されてきた日本の社会と文化を、歴史学、宗教学、美術史学、神話学、文学、民俗学、文化人類学などの研究成果に立って問題にする。しかも文化伝統を離れては、真に実り豊かな思想や文化の創造はありえないから、「深い泉の国」(インモース神父)の文化学としての日本思想史は、古代日本から現代日本までの、文化伝統の創造的発展の系譜を追求することになる。日本は明治以後、西洋の制度や思想を受容してきたから、一般に、日本思想史は幕末明治維新までを扱う「日本思想史」とそれ以降の政治指導者・知識人・民衆の政治社会思想から文化論までを扱う「近代日本思想史」とに分かれる。「日本思想史Ⅰ」は主として幕末明治維新までを論ずる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	日本思想史Ⅱ	日本思想史は、日本思想すなわち日本の文化伝統の歴史であり、歴史的に形成されてきた日本の社会と文化を、歴史学、宗教学、美術史学、神話学、文学、民俗学、文化人類学などの研究成果に立って問題にする。しかも文化伝統を離れては、真に実り豊かな思想や文化の創造はありえないから、「深い泉の国」（インモース神父）の文化学としての日本思想史は、古代日本から現代日本までの、文化伝統の創造的発展の系譜を追求することになる。日本は明治以後、西洋の制度や思想を受容してきたから、一般に、日本思想史は幕末明治維新までを扱う「日本思想史」とそれ以降の政治指導者・知識人・民衆の政治社会思想から文化論までを扱う「近代日本思想史」とに分かれる。「日本思想史Ⅱ」は主として近代日本思想史を論ずる。	
全学共通科目	選択科目	文化人類学Ⅰ	文化人類学は、人の営みである文化現象の分析を通して「文化」、更に「人類」とは何かを追及する学問である。研究対象となる領域には、婚姻、家族、親族、民族、社会といった組織の構造とそこで繰り広げられる、経済、政治、法、宗教、儀礼といった文化の形態が含まれる。フィールドワークという実証的手法によって世界のさまざまな集団の文化を比較し、異文化に対する理解力を養うことを目的とする。「文化人類学Ⅰ」ではこの中からいくつかを取り上げ、解説する。	
全学共通科目	選択科目	文化人類学Ⅱ	文化人類学は、人の営みである文化現象の分析を通して「文化」、更に「人類」とは何かを追及する学問である。研究対象となる領域には、婚姻、家族、親族、民族、社会といった組織の構造とそこで繰り広げられる、経済、政治、法、宗教、儀礼といった文化の形態が含まれる。フィールドワークという実証的手法によって世界のさまざまな集団の文化を比較し、異文化に対する理解力を養うことを目的とする。「文化人類学Ⅱ」ではⅠで扱わなかった内容の中からいくつかを取り上げ、解説する。	
全学共通科目	選択科目	法学Ⅰ	初めて法学を学ぶ学生諸君に法学に対する興味や関心をもってもらい、基本的な法原則・法概念そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが、本講義の目的である。主に民事法に関連した具体的な事例や判例を教材に用いて、市民感覚、自らの考え、意見などと照らし合わせながら法的な問題解決に接近していくための基礎を学ぶ。	
全学共通科目	選択科目	法学Ⅱ	初めて法学を学ぶ学生諸君に法学に対する興味や関心をもってもらい、基本的な法原則・法概念・法解釈などを習得してもらうことが、本講義の目的である。主に刑事法に関連した具体的な事例や判例を教材に用いて、自らの考え、意見、感覚などと照らし合わせながら法的な問題解決に接近していくための基礎を学ぶ。	
全学共通科目	選択科目	建学の精神を考える	亜細亜大学の歴史、教育理念、建学の精神等を学び、大学で学ぶ意味を考える。主に初代学長太田耕造先生の思想を学び、その教育への志を理解する。そして、受講生同士で話し合い、グループワークをする中で、受講生が亜細亜大学で学ぶ自分なりの意味を見だし、四年間の主体的な学びへと踏み出す場とする。	
全学共通科目	選択科目	介護等体験の意義と実践	介護等体験は、教員の資質向上と学校教育の一層の充実のため、「小学校および中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）に基づき小学校・中学校の教員を目指す者に義務づけられている体験活動である。特別支援学校や社会福祉施設、その他文部科学省令で定める施設における介護、介助、その他受け入れ施設の教職員に必要とされる業務の補助等の幅広い体験を通じ、共生社会における個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深めることを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	哲学Ⅰ	古来以来、諸学問の起源として座してきた哲学。近代以降も諸学の主人として任じてきた哲学が、現代の科学技術主義化の中でいかなる役目と位置を持ちうるか。今日の行きすぎた諸学が生み出す科学主義の悪しき側面を、総合的な視点から正していくことが哲学に課せられた課題であるといえる。この科目では、科学技術の諸現象を挙げながら、哲学の「総合」としての役割を考える。	
全学共通科目	選択科目	哲学Ⅱ	現代ほど「人間」という概念があいまいになりつつある時代はないかもしれない。「人間」の地位と、その復権という視点から、哲学史の中で変遷してきた「人間」の概念を明らかにしつつ、現代における「人間」の意味を明らかにし、今後われわれが対処すべき哲学的課題に迫ることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	倫理学Ⅰ		「よく生きること」についての自覚的反省を試み、受講生に自分なりの道徳的価値についての準拠枠を自覚させ、受講生同士の討論を通じて、異なる準拠枠に対する理解を深めることを目的とする。文学部ではないので、学説史的な内容は最小限にとどめ、以下のような分野に関わる同時代的課題のいくつかを取り上げて、そのトピックスを中心に、道徳的な認識と善悪の判断のあり方を考察する。生命倫理、環境倫理、戦争と平和、法と道徳、宗教と道徳、経済倫理、幸福論等。	
全学共通科目	選択科目	倫理学Ⅱ		「よく生きること」についての自覚的反省を試み、受講生に自分なりの道徳的価値についての準拠枠を自覚させ、受講生同士の討論を通じて、異なる準拠枠に対する理解を深めることを目的とする。文学部ではないので、学説史的な内容は最小限にとどめ、以下のような分野に関わる同時代的課題の内、「倫理学Ⅰ」で取り上げなかったトピックスを中心に、道徳的な認識と善悪の判断のあり方を考察する。生命倫理、環境倫理、戦争と平和、法と道徳、宗教と道徳、経済倫理、幸福論等。	
全学共通科目	選択科目	情報と社会Ⅰ		現代社会を語る上で情報の視点は不可欠であり、同時に情報は社会の中でとらえなければその特質は見えてこない。そこで、この講義は現代社会と情報の関わりについて幅広い知識をもとに洞察できる素養を身につけることを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	情報と社会Ⅱ		この科目は、ここ数十年の間に私たちの仕事や生活並びに社会そのものに大きな変革をもたらし、今後ともどまるところを知らない情報並びに情報技術のしくみや本質を正しく理解するとともに、社会に与える影響について洞察を得ることを目的とする。今日、インターネットは、従来型のメディアを吸収するとともに、単に情報発信するだけでなく、SNSなど社会的なつながりを形成するメディアとなり、私たちの思考や行動にさまざまな影響を及ぼしている。本科目では、前期の「情報と社会Ⅰ」で学んだ基礎的な知識をもとに、現実の情報社会における諸事象の背景やしくみ、その光と影、功罪、リスクなどについて多面的に学び、現代の情報社会を生きぬく力を養うことができよう。	
全学共通科目	選択科目	情報リテラシー		目的に応じて情報を主体的に収集・分析・加工・創造・発信することで問題解決を図る能力（情報リテラシー）はどの学問領域においても重要で、大学教育の基礎となるものである。今日の情報化社会において、情報通信技術（ICT）はコミュニケーション手段としてなくてはならないツールで、その活用能力を身に付けることは重要である。一方、ICTを活用していく上で大切な情報モラル、セキユリティ、著作権等の情報倫理についても、きちんと理解させることとする。更に、授業では情報の活用という観点から、様々なデータに隠された真の情報を読みとることの大切さについても学習させる。	
全学共通科目	選択科目	宇宙と物質		宇宙について人類は各時代に夢を描いてきた。科学が発展するにつれて宇宙の謎はかえって深まり、一般的に物理学の分野で際立って人気がある。宇宙に関する観測技術が驚異的に進歩し、高エネルギー物理学の進展とともに、宇宙の研究はいまや精密科学の領域に入ってきている。宇宙の進化、銀河、天体やまた物質の起源など興味あるテーマを観測事実に基づき科学的思考方法で講義する。これらのテーマはミクロの世界も含めて総合的な把握が要求され、基礎的な部分も必要に応じて学んでいく。	
全学共通科目	選択科目	地理学Ⅰ		地理学は自然と人間との関わりを追求する科学である。多様な自然の中で人間がどのように生活しているか？人間は自然をどのように変えてきたか？その歴史は？今は？これらの問いを明らかにするために様々なアプローチが用意されている。「地理学Ⅰ」では、自然と人間との関わりについて理解を深めるための手段のひとつである『地形図（国土交通省国土地理院発行）』の使い方・読み方に関する講義に加え、我々の日常生活に不可欠な『水』に関する講義を行う。地下水や河川水、湖沼のもつ特性と飲料水や産業への利用に伴う様々な環境問題についてその歴史と現状、課題を中心に講義を行う。	
全学共通科目	選択科目	地理学Ⅱ		地理学は自然と人間との関わりを追求する科学である。多様な自然の中で人間がどのように生活しているか？人間は自然をどのように変えてきたか？その歴史は？今は？これらの問いを明らかにするために様々なアプローチが用意されている。「地理学Ⅱ」では、人間生活の舞台となる大地（『地形』）の成り立ちについて、また我々人間を含めたあらゆる生物を取り巻く『大気』の状況について、主として自然地理学の観点から講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目	基礎数理Ⅰ		文科系の学生に不足しがちな数理的な基礎知識と論理的な思考方法を学習し、将来専門的な科目を勉強する際に必要とされ、卒業後社会人として必要不可欠でもある「問題分析力」と「最後まで考え抜く力」を遺憾なく発揮できるようにするための基盤を養成する科目である。「基礎数理Ⅰ」では、受講者の多くが数学を苦手としていることを考慮し、入門レベルにおける数学の知識を再確認しながら、数理的な考え方の基本や論理的なものの見方を講義し、基礎的な問題演習を通じてこれら考え方や見方を修得する事ができるよう指導する。	
全学共通科目	選択科目	基礎数理Ⅱ		文科系の学生に不足しがちな数理的な基礎知識と論理的な思考方法を学習し、将来専門的な科目を勉強する際に必要とされ、卒業後社会人として必要不可欠でもある「問題分析力」と「最後まで考え抜く力」を遺憾なく発揮できるようにするための基盤を養成する科目である。「基礎数理Ⅱ」では「基礎数理Ⅰ」と同程度の水準（またはレベル）を前提に、より進んだ内容の修得を目指す。就職試験における数理分野の問題解決能力や各種資格試験及び大学院への進学に際して必要とする数理的素養と論理的思考方法の基礎的な知識と能力を培うことを学習目標とする。	
全学共通科目	選択科目	基礎数理Ⅲ		学問研究においては、論理的思考力が必須である。情報を収集・整理し、これを正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること、また、自分の見解を論理的に述べ、相手の見解を理解した上でこれと議論することは、いかなる学問にも共通するプロセスであろう。また、人間関係が重視される日常生活でも、論理的思考が重要な場面は多い。職業の場で意思決定が求められても、論理的に思考しなければ正しい決定は下せない。プレゼンテーションの機会が与えられても、論理性に欠けると他者の理解や納得を得ることができないのである。本講義では、このように学問の場でも日常生活においても不可欠とされる論理的な思考力を、各自の能力に応じたクラスに分かれて習得するよう努める。	
全学共通科目	選択科目	基礎数理Ⅳ		情報通信技術の飛躍的な発達により、学問研究のあり方が大きく変容した。金融・経済、マーケティングなどの分野では、日々刻々と大量のデータが集積されている。法や政治の領域でも、新たな統計法により、公的統計が国民の合理的な意思決定のための基盤となる重要な情報であることを認め、公的統計の体系的整備と統計データの利用促進が図られることとなった。現在社会では、さまざまなデータを解析し利用する能力が不可欠である。そこで、本講義では、社会科学の各分野における事象の数的処理に関する知識と技術を習得させ、これを実際に活用する能力と態度を育成することを目的とする。	
全学共通科目	選択科目	統計学入門Ⅰ		統計学は文系、理系を問わず非常に応用範囲の広い学問である。「統計学入門Ⅰ・Ⅱ」を通して統計学の入門レベルを概観することになるが、「統計学入門Ⅰ」では、統計学を理解する上で欠くことの出来ない確率が中心的テーマです。日常使われる確率が、数学的にはどのように表現されるのかしっかりと聞いて欲しいと思います。	
全学共通科目	選択科目	統計学入門Ⅱ		統計学は文系、理系を問わず非常に応用範囲の広い学問である。「統計学入門Ⅰ・Ⅱ」を通して統計学の入門レベルを概観することになるが、特に「統計学入門Ⅱ」では、統計学の中心部にふれるので、自分の専門のどんな所に統計学の応用があるのか常に気をつけてもらいたい。そういうことを考える習慣を身につけてもらいたいと思います。	
全学共通科目	選択科目	数学入門Ⅰ		「数学入門Ⅰ」は、ベクトルと行列、ベクトルと行列の役割、連立1次方程式の解法などを主要な学習目標とする。コンピュータのアルゴリズムやプログラミングを作成する上で最低限必要となる論理的な考え方を「正比例」をキーワードにして学ぶ。正比例を一般化した線形性の概念を使って社会科学の分野に現れるさまざまな現象の理解とそれらをモデル化する代表的な方法を修得する。更に、各種の公務員試験や教員試験の問題を取り上げながら「線形数学」の分野の基本事項について実践的に学習する科目である。	
全学共通科目	選択科目	数学入門Ⅱ		「数学入門Ⅱ」は、無限小の世界における正比例を一般化した「微分」の概念を使って社会科学の分野に現れるさまざまな現象の理解とそれらをモデルとする代表的な方法を修得する。コンピュータのアルゴリズムやプログラミングを作成する上で最低限必要となる論理的な考え方を「連続と無限小」をキーワードにして学ぶ。更に、各種の公務員試験や教員試験の問題を取り上げながら「微分と積分」の分野の基本事項について実践的に学習する科目である。	
全学共通科目	選択科目	データサイエンス入門		近年、マーケティング分野や医療分野をはじめとする産業界の多くの分野でデータサイエンスが重要な役割を果たしている。データサイエンスを各分野で効果的に応用するためには、「データの適切な扱いと前処理」、「適切なアルゴリズムの選択」、「結果の適切な解釈」を習得する必要がある。本科目では、データサイエンス分野で広く用いられているプログラミング言語を使用し、実データを使った演習を通じてこれらの内容を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	選択科目 プログラミング言語Ⅰ		与えられたアプリケーションソフトウェアを操作するだけでは、コンピュータを自由に活用することはできない。コンピュータ上で自分のやりたい事を自分の手で実現するための第一歩としてプログラミングの基礎について学習する。プログラミング言語Ⅰでは汎用プログラミング言語コンパイラシステムを使ってその言語の文法、プログラミング技法、データ処理方法等を中心に学習する。プログラミング言語としては、JAVA、C(C++)言語、アセンブラ(CASLⅡ)、Ruby等を使用する。これらの言語の中から1言語以上を開講する。	メディア
全学共通科目	選択科目 プログラミング言語Ⅱ		Iで学んだ知識と実習を基盤として、Ⅱではより高度で実践的なプログラミング技術について学習する。Ⅰでは基本的なプログラミングを理解し、実際に自分で入力して実行する過程が中心であったが、Ⅱではプログラミングはもちろんのこと、自分でコーディングに必要な前処理からデバッグまで一人で行えるようになることを目標とする。使用する汎用言語にもよるが概ね多次元配列の処理やデータ処理がプログラミングでき、簡単なエディタ程度のアプリケーションの製作を目標とする。原則として、ⅠとⅡは同一の汎用プログラミング言語を履修する。	メディア
全学共通科目	選択科目 表計算とデータサイエンス		表計算ソフトは、企業において各種集計やグラフ作成などの日常業務に利用されるだけでなく、データサイエンスにおいても基本的な統計分析やより高度な分析のためのデータの準備に活用される基本的なツールとなっている。この科目では、各種集計やグラフ作成などの基本的な利用法から始め、各種データの基本的な統計分析を統計的な背景も含めた上で理解し、表計算ソフトとプログラミングを組み合わせたより高度な活用法までを習得することを目的とする。	メディア
全学共通科目	選択科目 キャリアデザイン		キャリアデザインは、職業を中心とした人生をどのように過ごすかを計画すること、すなわち、これからの時間をどのように過ごすかを考えることである。キャリアデザインでは、将来自分がどのような仕事に就き、どのような人生を送りたいか等、将来の自分のイメージし、その至るプロセスを計画する。また、キャリア形成に必要な二つの柱(内部環境と外部環境)を理解し、併せて社会で求められる就職基礎能力とコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。	
全学共通科目	選択科目 キャリア・インターンシップ		各学生が実際に企業活動の実体に触れることによって、実社会の諸問題(企業の仕組みや仕事の流れ、就業規則、社会人や企業人としての意識など)を学び、それぞれに職業観・就業観を育成して従来の職業選択や進路決定に役立たせるとともに、その後の大学生活全体の見直しと学業意欲の方向性・専門性(履修科目の体系化など)を見出す動機付けとなることを目的としている。つまり、本講義では、学生の学外研修による体験学習を通じて、各学生の職業意識の形成と大学内での学習効果の向上を期待している。	
教職課程科目	保健体育科教育法Ⅰ		保健体育教師として授業を行うためには、学習指導要領に基づき保健体育科の目標、内容、カリキュラムマネジメントを理解する必要がある。その上で指導計画を立て、授業を行い、学習評価をしなければならない。優れた授業(モデル授業)を観察し、その特性や構造を理解することは、授業の設計と実践において重要である。本科目は保健体育の授業を行う上で必要な基礎的な知識、技能を習得するとともに、保健体育教師としての教育観・教師観についても養うことを目的とする。	
教職課程科目	保健体育科教育法Ⅱ		本科目は保健体育科教育法Ⅰの学修を踏まえ、学習指導要領に基づく体育分野と保健分野の目標、内容、指導法の理解と実践を深化させ、実際の保健体育の授業を想定した学習指導案を作成することを目的とする。また、作成した学習指導案を発表、意見交換し、その質の向上を目指す。	
教職課程科目	保健体育科教育法Ⅲ		優れた保健体育の授業を行うためには、教材と教具を作り、運用できることが重要である。しかしながら、学習指導要領の理解だけでは、教具や教材を作るスキルは身につかないため、本科目では、その理解と実践の機会を設ける。また、学校現場で重要な要素(評価、場づくり、見学の問題など)にも触れ、指導力向上のためのマイクロティーチングを行い、教育実習を見据えた指導力を向上させる。	
教職課程科目	保健体育科教育法Ⅳ		保健体育の授業は、学習指導要領に基づいて、特定の内容を数回の授業にわたって指導する。そのまとまりのことを「単元」と呼び、単元の指導計画を詳細に記したものが「単元計画」である。良い授業は、単元の目的を達成するために、毎回の授業内容が効果的に計画されている必要があるため、単元計画と学習指導案は密接な関係を有している。本科目では、実際に単元計画と学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を重点的に行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程科目	学校経営と学校図書館		学校図書館の教育的意義や経営など一般的な事柄について理解する。学校図書館の理念、発展の歴史と課題、教育行政との関わり、司書教諭の役割と校内の協体制度及び研修、学校図書館メディアの選択と管理・提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワークを考察する。	
教職課程科目	学校図書館メディアの構成		学校図書館が「学習・メディアセンター」として機能するよう、メディア環境の変化における学校図書館の役割、メディアの種類と特性、メディアの選択と構成、メディアの組織化（分類、件名、目録、機械化）、学校図書館メディアの検索システム、電子情報源の組織化と司書教諭の役割について理解を深めるとともに、メディアの組織化に必要な実務能力を育成する。	
教職課程科目	学習指導と学校図書館		学習指導における学校図書館メディアの活用について理解する。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童・生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の利用、情報サービス（レファレンスサービス等）、教師への支援と働きかけを考察する。	
教職課程科目	読書と豊かな人間性		児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解する。読書の意義と目的、読書と心の教育（読書の習慣形成を含む）、発達段階に応じた読書の指導と計画、児童・生徒向け図書の種類と活用（漫画などの利用方法を含む）、読書の指導方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等）、家庭・地域・公共図書館などとの連携を考察する。	
教職課程科目	情報メディアの活用		学校教育における多様な情報メディアの特性と活用方法を理解する。高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む）、情報メディアの特性と選択、視聴覚メディアの活用、コンピュータの活用（教育用ソフトウェアの活用、データベースと情報検索、インターネットによる情報検索と発信）、学校図書館メディアと著作権を考察する。	
教職課程科目	教育ボランティア		教育現場でのボランティア活動を通じて、子どもたちの特性や活動場面に応じた、実践的な指導力を養うことを目標とする。教員の役割や職務内容、生徒との適切な関わり方、学習指導に必要な技術などを体験的・総合的に理解する。また、各自の活動経験を振り返り、自らの教員としての能力や適性、必要な知識・技能について考察する。	
教職課程科目	教育原理		教育とは何か、教育の基本的概念と教育の理念、および教育に関する様々な理論、思想、歴史について知り、現代教育の課題について深く考えていくための思考力を身につける。「教育の基礎的理解に関する科目」にあたる教職の基本科目の一つであり、3年次までに履修することが教育実習を行うための必要条件となる。	
教職課程科目	教職入門		教職を志望する者に対するオリエンテーション科目である。教職の意義及び教員の役割を考察し、教員の職務内容、研修・服務及び身分保障などについての理解を深める。また、教職への進路選択に資する機会の提供を行う。教職のイメージを明確にし、教職に就くために必要な資質について理解させ、教職志望の意識を確認する。	
教職課程科目	教育社会学		現代社会における子どもと学校をめぐる様々な状況や社会変動、またそれに伴う教育政策の動向や指導上の課題について知り、あわせて家庭・学校・地域社会の連携と学校安全に関する基礎的知識も身につける。「教育の基礎的理解に関する科目」にあたり、主として「教育の社会的事項」について扱う。	
教職課程科目	教育心理学		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を考察するとともに、障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても考察する。思考の発達、学習理論、動機づけ、学習指導と心理学、評価と測定などについて取り上げ、発達心理学的側面から教育を考察する。これも教職の基本科目の一つであり、3年次までに履修することが教育実習を行うための必要条件となる。	
教職課程科目	特別支援教育概論		子どもの学習上又は生活上の困難を知り、個別の教育的ニーズに対する支援方法について理解する。特別の支援を必要としている児童・生徒の障害の特性と発達、それらに対応する個別的教育支援の方法や教員間・関係機関との連携、また障害に関わらず多様な教育的ニーズを抱える児童・生徒への組織的な支援について学ぶ。	
教職課程科目	教育課程論		教育にかかわる基礎知識として、教育課程とは何か、教育課程編成の考え方と方法、学習指導要領との関わり、カリキュラム・マネジメント、日本の学校教育における教育課程の諸問題などについて学ぶことを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程科目	道徳教育の理論と実践		学校の教育活動全体を通じて行うものとされる、学校における道徳教育のあり方について考察する。中高における各教科及び特別活動における道徳教育の指導法、また中学校の道徳の時間における指導法を考察する。高校段階の「人間としてのあり方生き方」に関する教育についての理解を深める。	
教職課程科目	総合的な学習の時間の指導法		横断的・総合的な学習を通して、より良く課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざすという「総合的な学習の時間」の意義とその指導計画作成の考え方を理解する。また、具体的な指導の仕方ならびに学習活動の評価に関する知識・技能について理解を深める。	
教職課程科目	特別活動論		特別活動の指導法を考察する。特別活動の歴史をふまえて、その目標と性格を理解し、内容構成、学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事と学校文化、生徒指導とのかかわり、教育法規、評価のあり方などを考察する。	
教職課程科目	教育方法学(ICTの活用含む)		教育の方法及び技術、情報通信技術(ICT)を活用した教育の理論及び方法について考察する。学習理論、教授理論の基礎を理解し、教授法や評価法の望ましいあり方、ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進方法、児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)育成のための指導法等に関して基礎的な知識・技能を身に付ける。	
教職課程科目	生徒・進路指導論		生徒指導の理論及び方法について考察する。教師による生徒理解の仕方を学ぶとともに、生徒による教師理解を進める自己表現の仕方を学ぶ。具体的な事例を検討しながら人間関係のあり方の基本を理解する。また、学級指導・特別支援教育・進路指導等の理論及び方法について基本的な事柄を学ぶ。	
教職課程科目	教育相談		教育相談の理論及び方法を考察する。カウンセリングに関する基礎的な知識について理解する。教育相談の基礎となるカウンセリングマインドについて学び、教育相談を行ううえで配慮すべき事項を理解し、相談相手の気持ちを受け止める傾聴の技法の基礎を学ぶ。	
教職課程科目	教育実習指導		教育実習の事前指導のための演習科目で、各教科・科目における教材研究の方法を考察し、学習指導案の作成の方法を学び、教壇実習などを通じて実際の学習指導の方法を学ぶ。	
教職課程科目	教育実習Ⅰ		4年次において中学校免許取得者のための教育実習及び事前事後指導を行う。実習受け入れ校の指導の仕方にもよるが、教壇実習を主とした実習を3週間程度行うことを原則とする。生徒指導及び校務のあり方についても学ぶ。	
教職課程科目	教育実習Ⅱ		4年次において教育実習及び事前事後指導を行う。実習受け入れ校の指導の仕方にもよるが、教壇実習を主とした実習を2週間程度行うことを原則とする。生徒指導及び校務のあり方についても学ぶ。	
教職課程科目	教職実践演習(中・高)		本科目は、これまでの教職学習・教育実習や教職課程外での様々な学習・活動を通じて、受講生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するためのものであり、いわば1年生後期から始まった教職学習の三年半を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。受講生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。なお、教員として最小限必要な資質能力とは以下の4つを想定している。1.使命感や責任感、教育的愛情 2.社会力や対人関係能力 3.生徒理解や学級経営能力 4.教科指導力	